

社会福祉法人しらさぎ福祉会 第1期中長期事業計画（進捗状況）

（期間：平成30年4月～平成33年3月31日）

社会福祉法人制度改革により、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組を実施する責務についてなど、社会福祉法人の公益性・非営利性を確保する観点から法人の在り方が見直されたところです。

そのような情勢下、社会を支えていくための福祉人材の確保と地域との共生・協働が喫緊の課題であり、しらさぎ福祉会としては、このような社会情勢を真摯に受け止め、地域課題の把握と地域貢献を果たすべく、以下の中長期計画により、法人組織の健全化及び経営基盤の強化に力強く取り組んでいく考えです。

《経営ビジョン》

家族と暮らしているようなアットホームな施設としての誇りを持ち、地域社会に貢献し続けるための組織体制と経営基盤を築く。

1 サービス品質

1) 経営理念・方針の周知

「アットホームな施設」であることが法人・施設の真のカラーとして地域社会に浸透させます。（1年）

（進捗状況）職員一人一人の取り組みや各事業を通じてのPR活動を実施。地域社会だけでなく職員にも「アットホームな施設づくり」が定着しました。

2) 外部評価の実施

定期的な第三者評価を受け、情報交換を手段とした取り組みを通じて魅力を発信します。（2年）

（進捗状況）次年度における外部評価の実施を事業計画に盛り込みました。

3) 業務手順の標準化

定期的にマニュアルの見直しと非常勤職員を含めた研修を実施します。（1年）

（進捗状況）最低1年1回の定期的なマニュアルの見直しを各部署に指示。部署ごとに職員に周知しました。非常勤職員の研修参加に対しては最大限の工夫をしましたが、課題は多く不参加が強いられても情報が行き渡る手段を確保しました。

4) コンプライアンス

保管義務書類の保管庫を整備し、円滑な利用環境を確保します。（1年）

（進捗状況）改修工事完了を受けて、新たに3カ所の保管場所が確保できたため、その有効活用を既に開始しています。

2 人材

1) 人材確保

適切な人員配置および配分が確保できるように抜本的な見直しを行い、多様な人材活用を実現することにより安定した人材運用につなげます。(1年)

(進捗状況) 特定求職者雇用開発助成金(生涯現役コース)を有効活用して2名を採用、現在も特養1名、デイサービス1名が在職中です。その他独自採用により高年齢者まで幅広い世代が現場を支える体制づくりのため、業務分担などを見直しました。

2) 人材育成

主任・副主任を中心にした現場のまとまりを図り、業務改善努力を高めます。

(1年)

(進捗状況) 主任会議において、経営マインドや人材育成に関するスキルアップの要素を盛り込み、現場をまとめる力を養いました。

3) 経営マインドの育成

経営的視点で積極的に経営努力を行う意識を浸透させ、稼働率の向上を軌道に乗せます。(1年)

(進捗状況) チーフスタッフはもちろん、主任・副主任クラスにまで経営マインドを浸透させるための学習と意思統一を図り、稼働率を意識した役割意識、目標設定が共有できました。次年度における成果につなげる考えです。

4) 役員機能

法人組織を円滑稼働させることで、適正な財政管理の維持および計画的かつ戦略的な資金運用を実現します。(2年)

(進捗状況) 予算に従った計画的な資金運用に対する職員への意識付けと、法人としての資金運用方法を見直し、無駄と無理のない運営体制づくりに着手しました。次年度においても引き続き適正化に取り組んでいきます。

5) 権利擁護

スキルアップ研修の充実化を図ることで学習と内省を促す機会を作り、権利擁護の考えを浸透させます。(1年)

(進捗状況) 部署ごとに内部研修を実施する一方で、職員対象のアンケートを実施し、その結果を踏まえた接遇のあり方の学習、意識改革に着手しました。

3 財務基盤

1) 事業収入の拡大

すべての事業において、稼働率93%を上回る実績を維持します。(2年)

(進捗状況) 平成30年度末時点での目標稼働率として93%は高すぎたと判断。各事業の特性に応じた目標設定が必要と考え、次年度の計画においては事業ごとの実態に応じた実現可能な目標設定を行いました。

2) 積立金の計上

無駄な支出や不適切な経費の自粛を徹底し、事業収入を増やすとともに積立金を3年で1億円以上確保します。(3年)

(進捗状況) 計画に従い、無駄な支出や不適切な経費の見直しを進めました。その成果はありましたが、その一方で事業収入が伸びず、平成30年度実績においては、目標の3千万円以上の積立額には及ばず、3年計画での実現は不可能とみる。そのため、低迷する事業の底上げを組織の総力をあげて行う方針としました。

3) 財務分析

月次決算による財務分析を行い、財務状況と方針を経営に活かします。(半年)

(進捗状況) 月次決算による財務分析を参考資料とし、現場への運営状況を周知。運営会議において課題分析を行う意識が定着しています。

4 制度及び行政の動向

1) 介護報酬の改定

加算算定条件を徹底分析し、各事業において増収に転換します。(1年)

(進捗状況) 加算算定条件を分析し、実現可能な加算を取りこぼし無く算定する方針としました。平成30年度は、特養とデイ双方の個別機能訓練加算が復活し、事業実績を後押しする体制が築けました。今後はそれを維持しつつ、健康や自立に関心が高い利用者への啓発活動に力を入れて成果に結びつけます。

2) 行政からの受託事業

法人及び各事業の地域での存在価値を高め、地域ネットワークを活用して全事業で安定的運営を実現します。(1年)

(進捗状況) 姫路市からの受託事業で法人のメリットを最大限に生み出せるように啓発内容や受入体制を見直しました。次年度も引き続き取り組む考えです。

5 地域との関係

1) 地域連携

地域との協働姿勢を強化し、信頼関係を堅実維持するとともに問題解決機能の組織化を図ります。(1年)

(進捗状況) 地域連携強化のため、地域との接点をより多く作り、活かすことが重要であるため、次年度では全事業共通の課題として行動を求めていきます。

2) 地域特性の把握

自治会や民生委員、老人会、それぞれの特性を活かした情報網を確立し、事業運営に活かします。(1年)

(進捗状況) 地域特性の把握は出来たと考えられるが、成果は乏しく、各種団体それぞれの特性を活かした情報網の活用を更に求めていきます。

3) 労働市場の開拓

独自の人材確保術を実践する中、幅広い世代への関心を拡大的に広めるため、地域での福祉教育・介護のイメージアップ活動を展開します。(1年)

(進捗状況) 中学生を対象にイメージアップ活動として福祉学習を実施し、アンケート調査結果から、介護への関心の高まりを実感できました。

6 マーケット

1) 地域ニーズへの対応

更なる地域貢献を目指し、戦略的新規事業の立ち上げを実現します。(1年)

(進捗状況) 地域からの要望であった移動支援に焦点を当て、姫路市地域包括支援課、高齢者支援課、交通企画課、兵庫県高齢政策課との相談を実施。見守り事業と連動させる実施手段を検討。既に地域関係者に啓発を開始しており、5月から実施し、ニーズの掘り起こしに最大限活かしていきます。

2) 競合状況

町外事業拠点への進出・事業拡大に備えた準備に着手し、計画的に事業を展開します。(長期計画 10年)

(進捗状況) 先々の法人の事業展開に選択肢を広げるため、経営基盤を固めます。

7 設備・備品管理

1) エアコン室外機

安定的で機能的な空調設備を整えます。(2年)

(進捗状況) 新館棟の空調設備は、平成30年度の冬にも急停止するなど支障を来し、入居者の環境を脅かしました。このようなことを繰り返さないために、次年度夏までに整える方針を固めています。

2) デイサービス送迎バス

機能的・経済的・効率的な送迎体制を構築するための車両を確保します。(2年)

(進捗状況) バスには現状問題無いがリスクに備える段階にある。一方、ワゴンタイプの車2台が故障し修理を依頼。バス以外でも予算面で準備を検討中。

3) 屋根の塗装

屋根の塗りかえを実施し、外観風貌の一新によるイメージアップと風水害対策への設備投資を行います。(3年)

(進捗状況) 3年計画に掲げましたが、平成30年度には身近な府県が自然災害による被害に見舞われたため、更に緊急性が高まりました。また、ペンキの塗替えに適した時期も考慮し、急遽年度内に実施する結果となりました。

平成30年度

事業報告書(案)

社会福祉法人 しらさぎ福祉会

〈基本理念〉

「家族と暮らしているようなアットホームな施設」

〈基本方針〉

- ① 尊厳を守り、個別性を大切にします。
(不安や不快のない、健康で安全な生活)
- ② ご利用者やご家族との信頼関係を大切にします。
(ご利用者やご家族の視点に立ち、想いに応える)
- ③ 地域や社会とのつながりを大切にします。
(共生、協働、社会参加)

本年度は、平成30年4月の介護報酬改定に伴い、より一層の経営基盤強化が求められました。また、監事監査及び平成30年12月5日実施の姫路市実地指導監査の結果を踏まえて、事業運営の適正化に向けた手続きを速やかに対応しました。

一方、法人が平成30年4月に策定した独自の中長期計画に従い、計画的な経営基盤強化を図るための組織力強化に着手しました。そして、短期計画に重点を置きつつ、入居者の住環境改善と安全のための緊急性を重視した取り組みを1年間通じて精力的に行いました。

1 法人経営の原則の遵守

法人は、定款第3条の規程に則り、社会福祉事業の主たる担い手として相応しい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、経営基盤を強化し、サービスの質向上及び事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めることを宣しています。

その実践として、一つ目に、経営基盤を強化するため、平成30年4月の介護報酬改定の分析結果を基に、加算算定の条件整備として、有資格者人材の確保など体制づくりに努めました。主に、特養では褥瘡予防などの強化、看護体制の確保、特養とデイサービス双方で個別機能訓練加算の復活が実現しました。しかしながら、全体としては利用実人員の減少が響き、その成果は伸びず、次年度に持ち越されました。

職員教育と職員処遇の整備については、組織としての職場風土の改善と多職種間連携に力を入れ、職場内でのアンケート調査を実施し、その結果を踏まえ、人材確保と組織力強化を目的とした全職員の意識改革に成果をあげました。また、職員処遇では、平成29年度第1回理事会及び同年第1回評議員会で決議に至った非常勤職員における昇給基準の見直しに従い、平成30年4月から非常勤職員の昇給を開始。また、平成29年度第5

回理事会及び同年第3回評議員会で決議に至った調理員早朝出勤手当の支給を開始しています。平成29年度第4回理事会及び同年第2回評議員会で決議に至った退職手当支給規程を運用し支給実績もあがっています。

共に懸案事項となっていた旧管理規程の見直しとアットホーム林田しらさぎの事業化について、前者はそれに代わる法人組織規程の制定を果たし、後者は早期事業立ち上げの実現は難しく、ひとまずは保留となっていた不動産取得税を精算し、社会福祉事業に限らず法人の財産として柔軟に地域社会に役立てることを法人の意思として表明しました。

2 理事会・評議員会の開催

① 理事会の開催

- ・第1回 平成30年4月16日
(理事全員の書面による同意の意思表示及び監事全員の異議がない旨の申出により、理事会の決議を省略)
 - 第1号議案 定款の一部変更(案)について
 - 第2号議案 第1号議案に係る評議員会における決議の省略(案)について
- ・第2回 平成30年6月8日
 - 第1号議案 平成29年度事業報告(案)について
 - 第2号議案 平成29年度計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認について
(監事監査報告)
 - 第3号議案 平成29年度定時評議員会への上程議案の確認について
 - その他 平成30年度第1回理事会・定款の一部変更について
理事長の職務執行状況について
職員の入退職について
- ・第3回 平成30年9月10日
 - 第1号議案 法人組織規程制定(案)について
 - その他 理事長の職務執行状況について
各事業所の現況報告について
職員の入退職について
- ・第4回 平成30年12月17日
 - 第1号議案 平成30年度しらさぎの里拠点区分第1次補正予算(案)について
 - 第2号議案 法人組織規程制定(案)について
 - 第3号議案 第3回評議員会への上程議案の確認について
 - その他 平成30年度上半期決算報告について
平成30年度上半期監事監査報告について

理事長の職務執行状況について

職員の入退職について

各事業所の現況報告について

・第5回 平成31年3月11日

第1号議案 平成30年度第2次補正予算（案）について

第2号議案 平成31年度事業計画及び予算（案）について

第3号議案 平成31年度定期昇給（案）について

第4号議案 役員報酬等の総額の範囲（案）について

第5号議案 アットホーム林田しらさぎの今後の在り方（案）について

第6号議案 評議員補充選任候補者の選定（案）について

第7号議案 平成30年度第4回評議員会への上程議案（案）の確認について

その他 各事業所の現況報告について

職員の入退職について

理事長の職務執行状況について

平成30年度姫路市実地指導監査等の結果報告について

② 評議員会の開催

・第1回 平成30年4月17日

（評議員全員の書面による同意の意思表示により、評議員会の決議を省略）

第1号議案 定款の一部変更（案）について

・第2回 平成30年6月25日

第1号議案 平成29年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認について

（監事監査報告）

その他 平成29年度事業報告について

定款変更について

職員の入退職について

・第3回 平成30年12月25日

第1号議案 平成30年度しらさぎの里拠点区分第1次補正予算（案）について

第2号議案 法人組織規程制定（案）について

その他 平成30年度上半期決算報告について

平成30年度上半期監事監査報告について

各事業所の現況報告について

職員の入退職について

・第4回 平成31年3月27日

第1号議案 平成30年度しらさぎの里拠点区分第2次補正予算（案）について

第2号議案 平成31年度事業計画（案）及び予算（案）について

- 第3号議案 平成31年度定期昇給（案）について
- 第4号議案 役員の報酬等の総額の範囲について
- 第5号議案 理事長に関する規程の承認について
- 第6号議案 アットホーム林田しらさぎの今後の在り方について
- その他 各事業所の現況報告について
職員の入退職について
平成30年度姫路市実施指導監査等の結果報告について

③ 監事会の開催

- ・平成30年5月21日（世良監事・石飛監事）
平成30年6月8日の理事会及び平成30年6月25日の評議員会にて
平成29年度下半期の監事監査結果として報告
- ・平成30年11月17日（世良監事・石飛監事）
平成30年12月18日の理事会及び平成30年12月25日の評議員会にて
平成30年度上半期監事監査結果として報告

④ 評議員選任・解任委員会の開催

- ・第1回 平成31年3月25日
第1号議案 評議員補充選任候補者（案）について（補充選任の1名を選任）

3 事業運営

- ① 第一種社会福祉事業 特別養護老人ホームの経営
(地域密着型特別養護老人ホーム含む)
- ② 第二種社会福祉事業 老人短期入所事業の経営
老人デイサービス事業の経営
- ③ 公益事業 居宅介護支援事業の経営
地域包括支援センター事業の設置経営
(生きがいデイサービス事業)
(アットホーム林田しらさぎ)

4 本年度の重点施策

- 1) 平成30年度介護報酬改定に伴う更なる経営基盤の強化
 - i 介護報酬改定に伴い、法人の目指す実現可能な中長期計画に基づく運営体制の改善を進めるため、職員教育の一環として「組織」と「事業計画」の重要性を伝え、経営基盤の維持・強化に向けて、職員のスキルアップと意思統一を図りました。
平成30年度中に機能訓練指導員を特養とデイサービスに配置できたため、特養は平成30年8月から、デイサービスは平成31年2月から、個別機能訓練加算の算定が復活し、それによって自立支援や重度化防止という社会的ニーズに応えるための

体制が整っただけではなく、職員配置上にも適材適所のバランスが取れた働きやすい環境をつくることができました。

- ii 人材不足という社会的共通課題に対し、60歳以上の高年齢者がいつまでも活躍できる職場環境と役割分担を築き、多様かつ幅広い世代によって支えられる持続可能な組織体制づくりが必要との考えに立った運営を行いました。

平成29年度の大改修においては、介護職員の負担軽減策として見守り機器と最新式の入浴機器を導入しましたが、平成30年度には、国の人材確保等支援助成金を利用し、職員の腰痛予防や介護負担軽減のため、新館浴室に移動用リフトを導入しました。

「組織内のコミュニケーションと多職種間連携に関するアンケート調査」を実施し、課題抽出、改善対策を経て、幅広い世代の様々な職種がお互いの力を最大限に活かし合える職場環境づくり、そして持続可能な組織体制づくりに着手することで組織力の強化を図りました。

- iii これまで統一性に欠けていた各種規程類の整合性を図り整備するため、長年未整備であった旧管理規程について、それに代わる法人組織規程を整備し、組織体制と業務分掌を明確にしました。
- iv 事業実績や取り組みのPR、そして求人募集において成果を見出すため、ICTを活用し、ホームページのデザインと情報内容の見直しを積極的に行いました。

2) 人事管理の適正化への対応

- i 兵庫県老人福祉事業協会からの補助を得て、介護福祉士実務者研修及び介護職員初任者研修の受講料補助を行い、受講日の参加を円滑に行うための勤務上の調整を行いました。

平成30年度実績 介護職員初任者研修1名

- ii キャリアパスの仕組みにおいて、職種間格差が合理性を欠かないように、全職種の業務内容と給与体系の現状分析をし、改善を図っていきました。平成30年度においては、調理員早朝出勤手当の支給と退職手当支給規程の運用に着手しました。

3) 地域支援事業等事業の多様化への対応

軽度者の介護予防や認知症予防につなげるため、アットホーム林田しらさぎでのふれあいサロンの定期開催を継続しながら、介護者教室や地域交流講習会などの地域における公益的な取り組みの更なる充実化を目指し、林田校区からの「外出支援」

の要望に応えることを目的とした社会資源を、姫路市地域包括支援課、高齢者支援課、交通企画室との調整を繰り返し、次年度開始に向けての準備をほぼ整えました。

4) 財源の確保と計画的運用について

- i 介護報酬改定の影響と利用実績の低迷などの大きな課題が浮き彫りとなったため、原因の分析を行いました。算定可能な加算の取得に向けて、まずは特養とデイサービスにおける機能訓練指導員の獲得を果たし、個別機能訓練の定着化を図りました。
- ii 現場職員が経費節減と無駄のない財源活用ができるように、介護報酬と資金運用について学びを与えるとともに、中長期計画を周知させ、優先順位を考えた計画的な修繕や物品購入を行う視点を浸透させました。その考えの下、緊急性が最も高い特別養護老人ホーム本館屋根の塗り替え工事を実施しました。(期間：10/15～10/27)

5) 福祉サービス及び職員の質向上について

- i 法人の基本理念をさらに浸透させ、内部研修等により法令遵守と多職種連携への意識づけに力を入れました。また、アンケート調査を実施し、集計結果から組織内のコミュニケーションと多職種連携の重要性を説き、組織力の強化につなげました。
法人の基本理念の定着化を果たし、次年からは更なる質向上に向けて基本理念を次のステップに進め、心配りと誠意を尽くした心温かい支援が行える法人として取り組んでいきます。
- ii 地域社会に選ばれる施設及びサービスを目指して実施を予定している第三者評価による外部評価について、次年度の計画にあげ、次年度実施することが方針として固まりました。

6) 災害時に備えた体制の整備について

- i 前年度に続き、9月11日に姫路市危機管理室や消防署、地元自治会などとの綿密な相談と計画の下、前回の反省を踏まえた土砂災害避難訓練を関係機関と地域との合同により実施し、訓練の検証及び意見交換会を行いました。
また、福祉避難所運営マニュアルを作成し、実用的な工夫を次年度の課題としました。平成30年度に備蓄食料の在庫管理や被災時の施設間協力の動きもあり、合わせて内容を盛り込んだ上で、職員への周知と実用化につなげていきます。
- ii 本年度各地で起こった自然災害、特に地震災害が身近なものとなり、地震災害に関する正しい知識と対策を学ぶため、姫路市危機管理室より講師を招き防災講習会を開きました。その成果として、施設職員と地域住民との間で、防災の意識と理解を共有することができました。

次年度においては、今回の防災講習会での学習を受けて、地震災害時避難訓練の実施を計画することにしました。

iii 防火設備法定点検実施（8月23日）
シャッターの手動閉鎖装置作動不良（2カ所）

- ① 1階防火扉親扉 閉鎖速度速い
- ② 1階防火扉潜戸 閉鎖速度速い
- ③ 2階防火扉親扉 閉鎖速度速い
- ④ 2階防火扉潜戸 開放不可

以上の結果を踏まえて、後日検査後修理実施（平成31年3月4日）

iv 消防用設備等保守点検実施（4/18、10/18）

- ① 2階中階段避難口誘導灯 充電回路不良
- ② 2階中階段室内通路誘導灯 充電回路不良
- ③ 粉末ABC10型消火器1本 製造より10年経過 本体容器の耐圧試験必要

以上の結果を踏まえて、①②は修理実施（12月7日）

③は交換実施（平成31年1月24日）

7) その他

i 姫路市による社会福祉施設等実地指導監査（12月5日）

（平成30年度第5回理事会及び平成30年度第4回評議員会にて報告のとおり）

平成30年度

事業報告書(案)

特別養護老人ホームしらさぎの里

本年度の年間稼働率は、98.1%で前年度と比較し+2.3%の増加となりました。嘱託医や医療機関との連携を図り、入居者の健康状態の把握、早期の対応や受診を行うことで延入院者数の減少につながり稼働率の向上がみられました。

1 平成30年度介護報酬改定に伴う事業展開について

- 1) 喀痰吸引・経管栄養の介助が必要な方の受入れ体制の充実と、医療的ケアのため介護士・看護師・医師の連携、介護職・看護職を対象とした役割の施設内研修会を

実施しています。

- 2) 自然な最期を迎える事について、ご面会時やサービス担当者会議等においてご家族にお伝えし、看取り介護に対する理解の充実に努めました。

30年度ターミナルケア実施者：11名（内4名が永眠）

2 根拠に基づいた介護の実践

- 1) 根拠に基づいた介護の実践について

主任会議やフロアー会議、施設内研修会において、適正な水分摂取・歩行に対するケア・普通の食事を摂取できた場合に、身体にどのような影響を及ぼすのかを学び、部門間で連携を図りながら理論に基づいたケア・尊厳を守るケアの提供に努めました。また、適正な水分ケアを勧め、可能な限り自然な排便に繋がる様に医師との連携にも努めました。

特養・地域密着型特養共同の施設内研修

開催日	研修内容	担当職員
4月12.13日	介護職に求められている職業倫理	介護職員
5月10.15日	接遇、マナー	介護職員
5月19.24日	高齢者施設における事故発生の原因と予防	介護副主任
5月23.31日	高齢者に多い疾病	看護主任
6月7.13日	水の重要性と役割	介護職員
6月26日	食中毒の基礎知識と予防	栄養室係長
7月5.11日	吸引・胃瘻介助	看護室係長
7月27.30日	身体拘束	介護副主任
8月7.13日	高齢者虐待	介護職員
8月25.28日	電話応対	介護職員
9月10.14日	緊急時の対応	看護主任
9月21.25日	ターミナルケア	介護職員
10月14.20日	プライバシー保護、個人情報保護	介護職員
11月13.15日	感染症予防・対策	看護主任
12月25.28日	認知症ケア	介護職員
1月22.29日	介護事故の予防・緊急時対応	介護副主任
2月18.23日	吸引・胃瘻介助	看護主任
3月23.28日	高齢者の尊厳を守るケア	介護職員

新人研修（講義）日程：3月1日～8日

研修内容	担当職員
しらさぎの里の理念	施設長
諸規定の説明	事務長
パソコンの使用方法、接遇マナー、放送の仕方	事務員
介護の概要	課長
介護職の職業倫理	部長
高齢者への接し方・高齢者虐待、報告・連絡・相談	部長
高齢者の尊厳	部長
緊急時の対応（心肺蘇生法 + AED）	係長
技術標準（食事・排泄・入浴）	部長・課長・係長
移乗介助	課長・係長
高齢者の栄養・体調管理・栄養ケア計画・食中毒	栄養室係長
食事・排泄・入浴・移乗介助の実践	課長・係長
根拠に基づいた介護（水、歩行と排泄、認知症）	係長
胃瘻・喀痰吸引の基礎知識、応急手当	看護主任
高齢者の体調・感染症	看護主任
褥瘡の基礎知識と介護職の役割	看護主任

新人研修（実地研修）日程：3月9日～3月31日

研修内容	担当職員
業務・入居者対応の実地研修	本館副主任

実習受入状況

受入期間	学校名	実習内容
自 平成30年6月11日～6月23日 至 平成30年9月5日～9月27日	兵庫県立龍野北高等学校 3名	介護実習Ⅱ-1.2
自 平成30年9月10日 至 平成30年9月14日	兵庫県立大学 2名	給食の運営
自 平成30年5月19日 至 平成30年5月26日	神戸学院大学 1名	ソーシャルワーク

2 入居者の尊厳を守る基本的介護の実施について

1) 高齢者虐待・身体拘束の防止に向けた取り組みの実施

入居者に安心して自分らしく生活を送って頂くために、主任会議をはじめ各フロア一会議において、高齢者虐待と身体拘束に関する話し合いや事例検討会を行い、認知症や虐待の理解及び不適切なケアについても話し合い、職員への気づきを促し改

善していけるように努めました。

3 サービスの質の向上について

- 1) 根拠に基づいた介護（水分摂取、歩行と排泄、常食化）を取り入れたアセスメントと見直しを継続して行い、一日に必要な水分摂取量を目標値に設定し、意識障害・認知力の改善が見られた方が6名、福祉用具を用いて歩行が可能になられた方が2名、下剤に頼らず自然な排便が見られた方が2名となりました。

心身状況の把握に努め、変化があった事に対しご家族へお伝えし、ご家族の意向の確認とケア内容の提案を行い、ご家族とも一体となった施設サービス計画書の作成に努めました。また、ご家族へのサービス担当者会議出席を積極的に依頼し、施設でのケア内容の理解と協力を得られる様に努めました。

サービス担当者会議開催件数

項目 \ 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
サービス担当者会議の件数	133 件	115 件	144 件
ご家族参加の総件数	65 件	67 件	78 件

- 2) 担当介護職員より、毎月の近況報告（写真付き手紙）をご家族宛に送付し状態の共有を図りました。また、状態変化時にはご家族へ電話連絡を随時行い、施設の体制を再度説明したうえで、対応・ケア方針の検討に努めました。

①介護の取組み

i 食事：

椅子やテーブルの高さ、自助具を調整し、食事を摂るための座位を確認し、入居者ご本人に食べて頂けるよう環境整備に努めました。また、水分摂取を勧める事により脱水から起こる認知レベルの低下を予防し、改善に繋がる方もありました。

ii 排泄：

入居者一人ひとりに合わせた排泄方法を排泄委員会（尿測、排尿チャート）・フロー会議で検討し、実施しました。

月日 \ 種別	パット交換者	トイレ誘導者
平成 30 年 4 月	14 名	46 名
平成 31 年 3 月	16 名	44 名

iii 入浴：

入居者の身体状況に応じた入浴方法を、入浴委員会・フロー会議で検討し、各入居者に合った方法で入浴を実施しました。（30年7月新館にリフトを設置したことにより座位式特殊浴の人数が増加）

月日\種別	臥床特殊浴	座位特殊浴	個浴
平成30年4月	13名	20名	27名
平成31年3月	14名	37名	9名

②看護室の取組み

- i 入居者の日々の健康管理に努め、発熱時には温度板を活用し、その統計と初期の体調変化を見極め 嘱託医・協力医療機関と連携し、早期対応に努めました。
医師の往診時には、入居者の状態を的確に報告し 医師の診療補助に努めました。

嘱託医：毎週 20～30 名程度の診察

心療内科医師：対象者 23 名

嘱託医回診以外の協力医療機関等への受診状況			
平成28年度受診件数	平成29年度受診件数	平成30年度受診件数	
325回	324回	276回	
協力医療機関等への入院状況			
項目 \ 年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入院者数	21名	26名	22名

- ii 入居者・職員ともに年1回（夜勤者は年2回）の健康診断を実施（介護職は腰痛検査も実施）し、嘱託医による健康相談を行いました。
- iii ターミナルケアの実施：ターミナルケア開始決定については、ご家族に医師の説明・施設での看取り介護についての説明を聴いて頂き、細かく意向を確認し、その人らしく最期の時を迎えて頂けるような支援に努めました。また、その内容の記録を作成し、職員間での情報の共有を図りました。

平成30年度ターミナルケア実施者：11名（内4名が永眠）

項目 \ 年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ターミナルケア実施者数	7名	10名	11名

③栄養室の取組み

- i 給食実施状況

- ・食事形態について

食事形態について平成28年度・29年度・30年度3年間の比較をグラフにしました。

- ・食事形態3年間比較グラフ

<主食> 平成31年3月31日現在

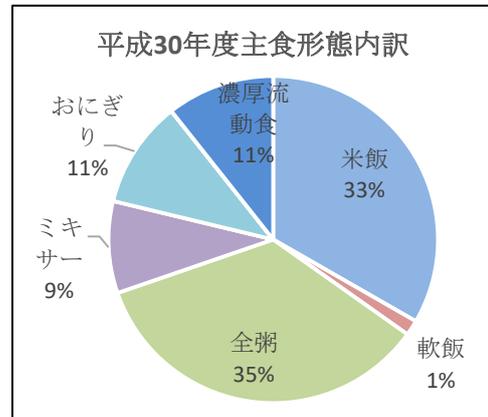
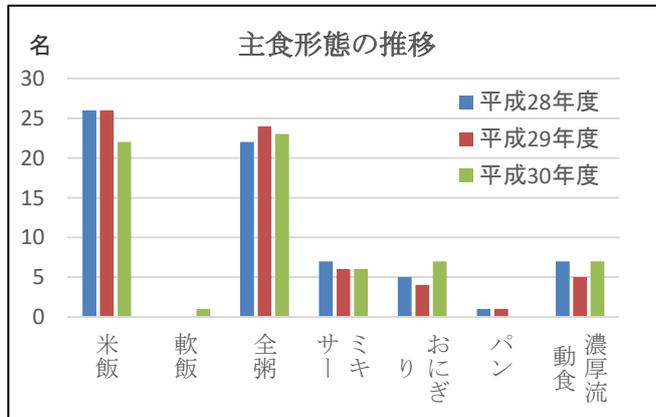
	米飯	軟飯	全粥	粥ミキサー	おにぎり	パン	濃厚流動食
平成28年度	26	0	22	7	5	1	7

平成29年度	26	0	24	6	4	1	5
平成30年度	22	1	23	6	7	0	7

(名)

※濃厚流動食内訳：胃ろう6名、経口摂取1名

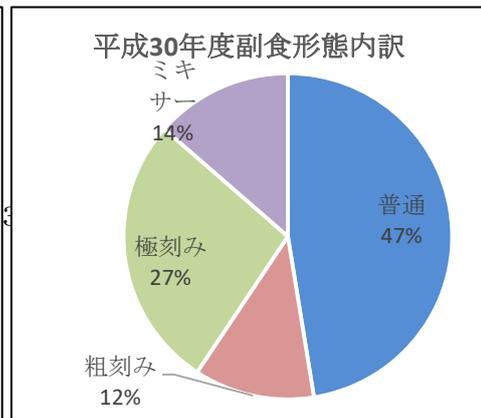
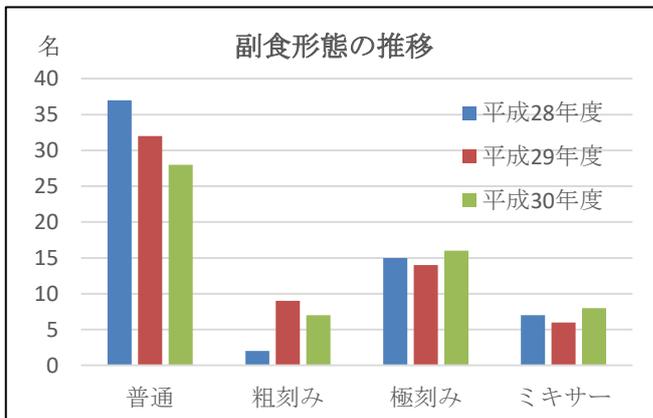
※粥ミキサーは平成30年度よりゼリー粥に変更



<副食>平成31年3月31日現在

	普通	粗刻み	極刻み	ミキサー
平成28年度	37	2	15	7
平成29年度	32	9	14	6
平成30年度	28	7	16	8

(名)



	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	カルシウム	鉄	ビタミンA	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンc	食塩相当量
	kcal	g	g	g	mg	mg	μg	mg	mg	mg	g

施設 基準量	1500	60.0	36.0	234.0	630	7.0	800	1.00	1.20	100	8.0
H30 年度 平均	1552	61.3	38.4	233.6	552	7.9	704	0.83	1.03	100	8.2

ii 栄養ケア計画について

特別養護老人ホームしらさぎの里では栄養ケアマネジメント体制を整えています。特養の入所者一人ひとりの個性や食事に対する希望にできるだけ対応し、体重管理および疾病予防、食事療法そして生活の一部としての栄養に関するケア計画を、嘱託医を含め各部署と連携して実施しています。またサービス担当者会議に栄養士も参加し、栄養ケア計画を施設サービス計画書と連動させ、より細かなケアとサービスを提供できるよう多職種で検討しています。

iii 経管栄養について

経管栄養（胃ろう・鼻腔）にて毎日の栄養を摂取される入居者の割合は全体の11%です。各個人の状態に応じた濃厚流動食の選択や適正カロリーの摂取、また逆流や嘔吐の予防などに努めています。嘱託医、看護師と密に連携を取り、濃厚流動食の種類を充実させ、個人個人に最も適した濃厚流動食で対応できるようにしています。これにより入居者の体調を良好に保ち栄養状態が改善され、また注入時の負担が軽減できるなど良好な結果を得ています。

iv 療養食について

特養入居者、ショートステイ利用者には様々な疾病を抱えておられる方も少なくありません。特に食事療法が重要となる病気をお持ちの方に対して嘱託医をはじめ看護師や介護職員が連携を取って疾病に対する療養食を提供しており、ショートステイ利用者に関しても療養食加算を算定できる体制があります。「生活の場」であることからご本人の意思を尊重し満足度も考慮しつつ疾病に対応した療養食を提供できるよう努めています。

<平成31年3月31日現在の療養食の種類と提供人数>

	糖尿食	心臓病食	腎臓病食	貧血食
特養	6	6	0	1
ショートステイ	2	1	0	0

3) 四季や生きがいを感じて頂けるように、下記 施設行事やフロアー行事に参加して頂きました。

特養合同施設行事・余暇活動実施状況

開催月	施設行事内容
4月	・ケーキバイキング・花見
5月	・ドライブ（チューリップ、ショッピング）
6月	・蛍狩り
7月	・ビアガーデン・かき氷・七夕・向日葵ドライブ
8月	・かき氷・ホットケーキ作り・そうめん流し
9月	・敬老会
10月	・運動会・ケーキバイキング・秋祭り
11月	・鍋パーティー
12月	・餅つき・クリスマス会
1月	・初詣・書初め・カラオケパーティー
2月	・節分・恵方巻き
3月	・ケーキバイキング・梅見

5 地域との連携の強化について

しらさぎふれあいサロンを偶数月に、特養・デイ・居宅で共同開催し、勉強会や施設見学、ボランティアや地域住民と入居者の交流を通して、高齢者施設の理解・安心感へ繋げることに努めました。地域サポート施設として、平成30年度は5名の契約者の見守り事業を行いました。また 介護技術講習会を2回開催し、介護技術の習得、高齢者の理解を深める事に努めました。

ふれあいサロン実施状況

開催日	4月	6月	8月	10月	12月	2月
参加者数	17名	16名	40名	32名	中止	中止

LSA 契約者状況

平成28年度	平成29年度	平成30年度
8名	6名	5名

介護技術講習会実施状況

8月22日	高齢者の摂食嚥下に応じた食事介助	参加：40名
10月23日	移乗介助 ボディーメカニクスを活用しよう	参加：32名

6 施設運営の安定と経費の適切な管理

1) 健康サポート（状態把握・対応）について

入居者の小さな様子の変化を捉え、嘱託医・各部署間での連携を密にとり状況に応じた対応（受診・食事形態変更・観察）と入院されている方の常態把握を細かく行い、入院期間を把握することにより特養空床の有効活用に努めました。

また、入居者の状態変化に応じて、介護度区分の適正な見直しと申請を行いました。

2) 経費削減について

主任会議にて光熱水費の推移を共有し、常に改善点を抽出し経費削減に努めました。

7 危機管理について

1) 介護事故及び感染症防止に関わる安全性の確立について

① 主任会議において事故検討委員会を行い、各フロアー会議においては危険予測・ヒヤリハットを活用し小さな打撲・すり傷に至るまでの対策を検討し継続して実施しましたが、軽微な傷や皮下出血の事故が多くなりました。また、入居者自身が、皮膚を掻かれることで傷や内出血に至る事や、家族による外出・外泊をされる前・後のボディチェックを行い 身体状況を確認した結果、変化があればご家族に随時伝えました。

介護事故件数対比表

平成 28 年度	皮下出血 55 件	表皮剥離 44 件	転倒 36 件
平成 29 年度	皮下出血 73 件	表皮剥離 48 件	転倒 23 件
平成 30 年度	皮下出血 95 件	創傷 62 件	転倒転落 31 件

平成 29 年度 総事故件数 203 件 平成 30 年度 総事故件数 242 件

②毎月、感染症対策委員会を開き時季に応じた感染症の同行を確認し、事前の予防・対策を図りましたが、1月に入居者が発症し入居者3名、職員3名が感染しました。

年度 \ 診断名	インフルエンザ A 型	インフルエンザ B 型	疥癬
平成 29 年度	7 名	6 名	1 名
平成 30 年度	6 名	0 名	0 名

2) 苦情に関して

入居者・家族への細かなコミュニケーションや連絡・近況報告（写真付き手紙）を適切に行い施設での状況をお伝えし、ご家族の意向も踏まえた対応・ケアの実施に繋げることにより、平成 30 年度の苦情は 0 件でした。

また、2ヶ月に1度、苦情解決委員会を開催し、第三者苦情委員に参加頂き、地域の介護相談についても即対応しました。

平成 29 年度苦情件数 1 件 平成 30 年度苦情件数 0 件

3) 危機管理について

下記 日程において、消防避難訓練を実施し、非常食の食数の見直しも行き 5 日分を常備しています。

特養・地域密着型特養共同の防災避難訓練実施状況

実施日	訓練内容	対象者
5 月 21 日	消火、通報および避難等を連帯して行う消防機関への通報訓練(ホットライン) ホーム内への通報連絡訓練等	全職員、地域住民
9 月 11 日	情報伝達訓練、避難誘導訓練 防災講習会、訓練検証消火、通報および避難等を連帯して行う。	全職員、地域住民 姫路西消防署

成 3 0 年 度

事業報告書(案)

しらさぎの里ショートステイ事業所

本年度年間稼働率は、104.4%で前年度に比べ-3.7%となっていますが、特養の空床は1.8%と前年度比 2.5%改善しています。長期利用者の体調不良や入院によりキャンセルされる事が多く稼働率の低下につながったと考えます。

1 ケアプランに沿ったサービス提供について

新規利用時はもとより、退院時や状態変化時にもケアマネジャーからの情報提供を元に事前訪問を実施することにより、状況に応じたケアの提供とケアプランの作成に努め、利用時毎に自宅での様子を伺い、各引継ぎ時に状態変化を職員に伝達し状態の変化に即応できるように努めました。また、“すこやかメモ”に利用中の様子を記載し、退所時にご家族にお伝えし状態の共有に努めました。

2 在宅生活継続に向けてのケアの構築

在宅生活を念頭に、移動時など自宅での生活状況と同じ内容を想定し、状況に応じて車椅子と歩行器の併用を行いました。また、食器洗い・洗濯物たたみ・台拭き・掃き掃除など日常的な役割を持つことによる心身機能の維持・向上と介護負担の軽減・在宅生活

の継続に繋がるように努めました。

3 利用者、家族との信頼関係の確立について

- 1) サービスの利用初めや契約から時間が経過している方に関しても、ご利用に関して必要な事項があれば、再度丁寧に説明したうえで納得してご利用頂けるよう努めました。
- 2) ショートステイの物品チェックの流れを作成し、ショートステイの入所・退所時には物品チェックを行い忘れ物が無いように努め、忘れ物自体も減少しています。
- 3) 利用中の細かな状態の変化であっても ご家族に連絡し意向を確認しながら対応を行いました。体調不良時には、ご家族に早目の連絡と状況の説明を行い 受診を依頼しております。
- 4) 生きがいづくり、楽しみづくりについて
 - ① 個室を利用いただき過ごしやすい環境を提供するとともに状況に応じて居室内で行って頂けるようにしております。
 - ② ショートステイの利用が多めになっている方や利用初めで少し不安感を持たれている方には、デイサービスで知り合いの方と面会やご家族からお手紙を書きいただき、不安感の軽減や関係性を保てるように支援を行いました。
 - ③ また、施設内での生活援助、レクリエーションだけでなく「ショートステイに行って楽しかった。」と思われる様に、利用者の趣味・特技を活かし、特養クラブ活動（生け花・療育音楽等）や年間行事に、ご利用時に合わせて希望を伺い実施に繋げました。
- 5) 食事について

利用者個々の嗜好に基づき食事を提供し、食欲の減退に繋がらないように対応しました。また、療養食が必要な方に対し、サービス担当者会議により療養食の要否を検討し、嘱託医・各部門との連携に基づき提供を行いました。また、食事形態の変更が必要であれば利用者・ご家族の意向を確認のうえ、状態に応じた食事形態に変更を実施しました。

4 短期入所事業の安定と居宅介護支援事業所との連携強化

- 1) 体調が不安定な方や医療的ニーズが増加する中、安心・納得して利用頂く為に、居宅介護支援事業所との連携を密に行い、ご家族にもショートステイでの対応限度に関して利用前に丁寧に説明し、納得頂きご利用に繋げました。また、ショートステイの空き状況を合わせてお知らせすることにより、ご利用に繋がっています。急なサービス利用にも対応できるように、特養入居者の入院時の空床を詳細に把握し、緊急なニーズにも可能な限り対応できるように努めました。
- 2) ご利用中の些細な変化であっても担当のケアマネジャーに電話にて連絡し、月に1度ご利用時の情報提供を行い綿密な連携に努め、担当ケアマネジャーとの信頼関係の構築に努めました。

平成30年度

事業報告書(案)

地域密着型特別養護老人ホームしらさぎの里

本年度の年間稼働率は、99.1%と前年度に比べ4%の増加となりました。入居者個々に応じた水分ケアや健康管理を実施する事と、医療機関との連携を的確に行った事による体調の安定が図れ稼働率の向上に繋がったと思われます。

1 入居者の意思・人格の尊重とサービスの質の向上

地域密着型単体の委員会（食事・排泄・入浴）・フロアー会議・サービス担当者会議において、入居者の意思を尊重し、入居者の有する能力に応じたケアの検討と自立支援に努め、自宅で行ってきた生活の継続と役割を持った生活を送れるように努めました。

1) サービスの質の向上について

① 食事に関して

食事委員会において、入居者の時々の状態に応じた食事時の姿勢・食事形態を話し合い、咀嚼・嚥下状態とどの部分に介助を要するのかを検討し、普通の物を食べられる喜びを実感して頂くためにも、行事食や月一回のバイキングの実施と常食化（ミキサー食→極刻み食→刻み食→一口大→常食）に努めました。

② 排泄に関して

排泄委員会において入居者個々の身体状況・認知症の状況に応じた介助の方法を検討しケアの提供を行いました。

月日\種別	パット交換者	トイレ誘導者
平成30年4月	5名	5名
平成31年3月	7名	3名

③ 入浴に関して

入居者個々の希望・身体状況に応じて、入浴委員会で話し合い、入居者に合った入浴方法を検討し、入浴して頂いております。

月日\種別	個浴	リフト浴
平成30年4月	0名	10名
平成31年3月	1名	9名

④ 特養（広域）と共同し利用者及び家族の思いに添った終末期の看取り介護の実施に努めました。平成30年度ターミルケア実施者：3名（永眠：2名）

⑤ 特養共同の施設行事・フロアー行事に参加頂き、生きがい、目標作りに繋がるような支援に努めました。

フロア行事実施記録

日 程	行事内容	日 程	行事内容
4月11日	いちご狩り	9月27日	外食（そうめんの里）
4月27日	スフレ作り	10月2日	ちゃんちゃん焼き
5月10日	お誕生会	10月12日	お誕生会
5月28日	ホットケーキ作り	10月23日	ドライブ（コメダ珈琲店）
6月1日	ドライブ（コメダ珈琲店）	10月30日	紅葉狩り（龍野）
6月12日	お好み焼きパーティー	12月9日	お誕生会
7月2日	ドライブ（安富ゆず工房）	1月5日	お誕生会
7月7日	七夕祭り	1月18日	お誕生会
7月11日	外食（龍野）	1月27日	カステラ作り
7月24日	ミニ夏祭り	2月15日	お誕生会
7月27日	餃子作り	2月25日	デコポンゼリー作り
8月7日	けまり寿司作り	3月20日	甘酒ゼリー作り
8月23日	冷やし飴作り	3月21日	お誕生会
8月30日	そうめん流し		

2) 高齢者虐待の防止の観点からフロア会議において、高齢者虐待に関する事例検討・良い対応・不適切な対応・声掛けの方法と、入居者への日頃の認知症状への対応方法について話し合い、その中で最善のケア方法の統一を行うことにより、認知症ケアに対する理念の共有化と身体拘束・高齢者虐待に関する意識付けを行いました。

また、フロア会議において認知症に関する研修会を実施しました。

3) 入居者個々に合った食事提供・栄養ケアの実施

入居者個々に美味しく適切な食事提供を行うため、部門間で連携を図り、身体状況や嚥食状況などを常に把握し、低栄養状態の予防・改善、認知症進行の防止に努めました。

① 炊飯や食事の盛り付けはユニットで行いより家庭の雰囲気作りに心掛けました。

また、入居者の食事摂取状況を把握し 個別対応の食事提供に努め、その日の状況に応じて食事形態を微調整し、安全に食事を食べて頂けるように努めました。

② 低栄養や褥瘡リスクの高いまたは褥瘡が発生している入居者に対し、看護師・栄養士と連携し、速やかな栄養改善計画を立て適切な栄養管理を行いました。

③ 季節の食材を取り入れた月1回の昼食お楽しみバイキング、ユニット内での入居者との家庭的で楽しみのある食事作りやおやつ作りに努めました。

4) 運営推進会議を行い、地域の自治会、老人会、民生委員、地域包括支援センターに出席いただき、意見を伺いより良い施設の構築に努めました。

2 ユニット型の特性を活かしたケアの構築

1) 入居者の要望に耳を傾け 入居者が自分らしく生活を送れ、在宅生活時から現在の状況まで把握できるように、入居者の 24 時間シート（アセスメント）を活用し、月 1 回のフロー会議により内容の検証と共有を行いました。

また、日常的な他部門との連携をしっかりと図ることにより情報を共有し 他の専門職の意図を理解し共通理解のもと援助を行えるように努めました。

3 施設運営の安定と経費の適切な管理

1) 健康サポート（状態把握・対応）について

根拠に基づいた介護（水・歩行と排泄）を取り入れ入居者の小さな様子の変化を捉え、嘱託医・各部署間での連携を密にとりましたが、入院者はおられませんでした。

医療機関と連携を図り、入院されている方の常態把握を細かく行い、入院期間を把握することにより空床の有効活用に努めました。（30 年度 入院者 3 名）

4 家族・地域との関係の強化について

1) 入居者・家族・職員が三位一体となった関係を構築し、明るく家庭的な環境をつくり、家庭との結び付きを重視した生活を提供するために、入居者の身体状況・体調変化時にはご家族への状況連絡を行い、月 1 回ご家族への近況報告を行いました。また、ご家族の無理のない程度に昼食や外出、ユニット独自の行事などにも呼びかけ家族と過ごす時間を持って頂きました。

2) 四季や生きがいを感じて頂くために、特養・地域密着型特養の合同施設行事にも参加していただきました。

5 危機管理について

1) 介護事故及び感染症防止に関わる安全性の確立について

① フロー会議において、危険予測と小さな打撲・すり傷に至るまでの対策を検討し継続して実施した結果、介護事故の減少に繋がりました。また、入居者自身が、皮膚を搔かれて傷や内出血を確認し、家族による外出・外泊をされる前・後のボディチェックを行い 身体状況を確認した結果、変化があればご家族に随時伝えました。

介護事故件数対比表

平成 28 年度	皮下出血	23 件	打撲	44 件	転倒	11 件
平成 29 年度	皮下出血	42 件	打撲	13 件	表皮剥離	9 件
平成 30 年度	皮下出血	54 件	打撲	16 件	創傷	13 件

平成 29 年度 総事故件数 70 件 平成 30 年度 総事故件数 89 件

② 毎月、感染症対策委員会を開き時季に応じた感染症の同行を確認し、事前の予防・

対策を図った結果、感染者はおられませんでした。

2) 苦情に関して

入居者・家族への細かなコミュニケーションや連絡・近況報告（写真付き手紙）を適切に行い施設での状況をタイムリーにお伝えし、ご家族の意向も踏まえた対応・ケアの実施に繋げることにより、平成30年度の苦情は0件でした。

また、2ヶ月に1度、苦情解決委員会を開催し、第三者苦情委員に参加頂き、地域の介護相談についても即対応しました。

平成28年度苦情件数 0件 平成29年度苦情件数 0件 平成30年度苦情件数 0件

3) 防災対策について

非常食の食数の見直しも行い 5日分を常備しています。また、特養共同の防災計画に基づき、消防訓練・救急法実践訓練を実施しております。

給食部門

1) バイキングについて

今年度も月1回、昼食バイキングを実施しました。なるべく曜日が重ならないよう計画を立て、献立は季節のものを多く取り入れることを心がけて作成しました。入居者に季節感や華やかさを楽しんで頂けるよう盛り付けや彩りにも配慮しました。

<バイキング風景>



～バイキング実施状況～

実施日	献立内容
4月19日（木）	握り寿司 浅利の塩焼きそば 鶏の唐揚げ名古屋風 春野菜のキッシュ 茄子の海老サンドサラダ ジャーマンポテト 茶碗蒸し 春野菜の豚汁 プリンアラモード
5月22日（火）	ネギトロ巻き/サラダ巻き パンピザ 春鯉のカルパッチョ

	海老の肉巻きフライ 煮豚と野菜の炊き合わせ 枝豆腐 茶碗蒸し 一口とろろそば フルーツのトライフル
6月20日(水)	鮎めし クリームチーズパイ 季節のお造り 海老とオクラの海苔巻き揚げ 牛肉ロールトマト煮 茄子の揚げ出し 鱧入り茶わん蒸し ベトナム麺フォー 黒ゴマプリン
7月20日(金)	鰻のひつまぶし ベーコンチーズパン 季節のお造り 茄子のミートグラタン 海老と大葉の串カツ 鶏のタルタル春巻き 茶碗蒸し 鯛そうめんのすまし汁 ヨーグルトゼリーメロン添え
8月27日(月)	散らし寿司 ミニウイナーロール 季節のお造り 鶏つくねの照り焼き トンデリング モロヘイヤと茗荷の胡麻和え 茶碗蒸し 鱧の吸い物 桃のデザートピザ
9月19日(水)	松茸ご飯 明太ポテトパイ 季節のお造り 鮭のグラタン ネギ巻き味噌カツ 肉団子と野菜の煮物 茶わん蒸し 秋野菜の豚汁 小豆ムース
10月27日(土)	牡蠣ご飯 サンドイッチ 季節のお造り ロール白菜 きのこスープ 蓮根の金平 松茸と鱧の吸い物 茶わん蒸し 抹茶ババロア
11月26日(月)	鉄火巻き/海老フライ巻き パングラタン 季節のお造り チーズ in メンチカツ ブリ大根 ごちそうポテトサラダ 茶碗蒸し 一口みぞれ蕎麦 濃厚杏仁豆腐
12月18日(火)	鯛めし 牡蠣オコ ローストビーフ スティック唐揚げ カニと小松菜のキッシュ コールスロー 茶わん蒸し パンプキンスープ クリスマスカップケーキ
1月18日(金)	散らし寿司 焼肉ドッグ 豚のネギ巻きフライ カニ甲羅グラタン 季節のお造り 海老団子の柚子あんかけ 茶わん蒸し 牡蠣のクラムチャウダー レアチーズムース
2月19日(火)	手毬寿司 厚焼き玉子のサンドイッチ 海老とオクラの海苔巻き揚げ 本格ビーフシチュー ワカサギの南蛮漬け ぬた 茶碗蒸し ベトナム麺フォー 三色ひな祭りゼリー
3月19日(火)	鯛めし ベーコンとほうれん草の食パンキッシュ 季節のお造り 海老とアボカドのチーズ春巻き 春キャベツのロールキャベツ 蕪と菜の花の柚子味噌かけ 茶わん蒸し 浅利の赤だし イチゴのババロア

2) 手作りおやつについて

毎週火・金曜日に厨房職員が交代でおやつを作り提供しました。また年4回、栄養士と厨房職員手作りによる、季節のフルーツや食材を使ったケーキバイキングを実施しました。入居者の方にとっても喜ばれていました。

～ケーキバイキング風景～



<特養ケーキバイキング実施状況>

特養	作成したデザート
4月25日(火)	チェリーのゼリー・チョコエクレア・ロールケーキ
8月3日(金)	シュークリーム・ロールケーキ・マンゴームース
12月11日(火)	キャンドルケーキ・りんごのムース・チョコマフィン
3月13日(火)	苺のミルフィーユ・シュークリーム・チョコレートモカプリン

3) 行事報告(行事食及び給食関係)

<特養>

日程	行事内容
4月6日(金) 7日(土)	特養お花見(弁当の発注、作成、提供)
4月27日(金)	ユニットスフレ作り(食材準備・調理指導)
5月10日(木)	ユニット誕生日会(プリンケーキ作り)
5月10日(木)	新館クレープ作り(食材準備・調理指導)
5月31日(木)	本館バームクーヘン作り(食材準備・調理指導)
6月7日(木)	本館アイスデコレーション(食材準備)
6月12日(火)	ユニットお好み焼き作り(食材準備・調理指導)
7月5日(木)	本館タコ焼き作り(食材準備・調理指導)
7月7日(土)	ユニット七夕ゼリー作り(食材準備・調理指導)
7月13日(金)	特養ビアガーデン(食材準備・提供)

7月24日(火)	ユニットフルーツかき氷作り(食材準備)
7月27日(金)	ユニット餃子作り(食材準備・調理指導)
7月29日(日)	本館フルーチェ作り(食材準備)
7月30日(月)	新館スイカ割り(食材準備)
8月7日(火)	ユニット手毬寿司とかき氷作り(食材準備・調理指導)
8月9日(木)	新館かき氷作り(食材準備)
8月14日(火)	本館かき氷作り(食材準備)
8月23日(木)	ユニット冷やしあめ&水ようかん作り(食材準備・調理指導)
8月30日(木)	特養そうめん流し(食材準備)
9月23日(日)	特養夏祭り(模擬店準備・調理指導・販売)
9月27日(木)	新館お好み焼きパーティー(食材準備・調理指導)
9月29日(土)	本館ベビーカステラ作り(食材準備・調理指導)
10月2日(火)	ユニット鮭のちゃんちゃん焼き作り(食材準備・調理指導)
10月12日(金)	ユニット誕生日会(ケーキ材料準備)
10月21日(日)	特養運動会(弁当の手配、作成、提供)
10月25日(木)	新館ホットケーキ作り(食材準備・調理指導)
10月29日(月)	本館スイートポテト作り(食材準備・調理指導)
11月12日(月)	ユニット鍋パーティー(食材準備・調理指導)
11月19日(月)	新館ぜんざい作り(食材準備・調理指導)
11月20日(火)	本館鍋パーティー(食材準備・調理指導)
11月22日(木)	特養焼きいも(食材準備)
11月26日(日)	本館ムース作り(食材準備・調理指導)
11月29日(木)	新館すき焼きパーティー(食材準備・調理指導)
12月9日(日)	ユニット誕生日会(南瓜プリン食材準備・調理指導)
1月5日(土)	ユニット誕生日会(プリンケーキ作り)
1月27日(日)	ユニットベビーカステラ作り(食材準備・調理指導)
2月25日(月)	ユニットデコポンゼリー作り(食材準備・調理指導)
3月20日(水)	ユニット甘酒プリン作り(食材準備・調理指導)

<デイ>

4月8日(金)	お花見(弁当の発注、提供)
9日(土)	
7月6日(金)	流しそうめん(食材準備)
7日(土)	
1月21日(月)	寄せ鍋パーティー(食材準備・調理指導)

26日(土)	
--------	--

その他：毎月のおやつレク（食材準備）
リハビリクッキング（食材準備）
手作りおやつ提供（随時）

4) 嗜好調査について

個別の嗜好調査として、月1回の頻度で栄養士・厨房職員による聞き取り調査を行いました。

特養入居者・ショートステイ利用者・デイサービス利用者を対象とした嗜好調査を行い、結果に基づいた献立作成を心がけました。入居者・利用者の生活歴や意見に触れることができ、職員意識の向上に反映させることができました。

また、今年度も全特養入居者とデイサービス利用者を対象にした一斉嗜好調査を年1回実施しました。一斉に実施することで喫食者の意見をデータ化することができ、より良い給食運営につなげることができました。

5) 栄養士または管理栄養士養成課程の実習生受け入れ

特別養護老人ホームしらさぎの里では、栄養士または管理栄養士養成課程の実習生の受け入れを行っています。平成30年度は2名の実習生を受け入れ、「給食の運営」において給食業務を行うために必要な食事計画や調理を含む給食サービス提供に関する技術を指導しました。

6) ふれあいサロンのお菓子作り・提供

前年度に引き続き、地域住民が参加されるふれあいサロンにおいて、しらさぎの里での手作りおやつのPRや参加された方に喜んで頂けることを目的として栄養士と厨房調理員がお菓子を作成・提供を行いました。

～実施内容～

8月22日(水)	ベイクドチーズケーキ
10月23日(火)	ホワイトチョコブラウニー



7) 男の料理

今後、少子高齢化社会が進むにつれて、独居になる、あるいは介護する立場になる可能性のある男性が増えています。家庭においても料理に関心を持ち、簡単なものなら作ることが出来るという自信を持って頂くことを目的とし、男の料理教室への参加・指導を行いました。

～実施状況～

実施日／担当	献立	参加者 人数	
4月21日 (土) 村田	<ul style="list-style-type: none"> ・浅利の炊き込みごはん ・ハンバーグおろしポン酢ソース ・空豆豆腐 ・きなこ麩 	9名	
5月19日 (土) 福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・空豆とたくあんの混ぜご飯 ・筍のはさみ揚げ ・茄子のみぞれ煮 ・れんこん団子汁 ・関東風桜餅 	9名	
6月16日 (土) 村田	<ul style="list-style-type: none"> ・イカとニラのチヂミ ・冬瓜と鶏団子のスープ ・スナップエンドウとタコのポン酢和え ・酒粕スティッククッキー 	8名	
7月21日 (土) 村田	<ul style="list-style-type: none"> ・炊飯器で中華おこわ ・鶏のタルタル春巻き ・もやしのスープ ・モロヘイヤと茗荷の胡麻和え ・白桃とサイダーのジュレ 	5名	
8月18日 (土) 福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・梅干と枝豆のさっぱり混ぜご飯 ・茄子の和風ロール餃子 ・オクラと海苔のお浸し ・夏野菜豚汁 ・もちもち栗どら焼き 	7名	

9月15日 (土) 福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・ひき肉と茄子のピリ辛味噌丼 ・わさびエビマヨ ・春雨スープ ・パンプキン白玉 	7名	
10月20日 (土) 福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・秋刀魚の炊き込みご飯 ・ロール白菜 ・柿なます ・りんごパイ 	4名	
11月17日 (土) 村田	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯 ・チーズinミンチカツ ・さっぱりポテトサラダ ・白菜のミルクスープ ・ドリップコーヒーゼリー 	8名	
1月19日 (土) 福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・山菜おこわ ・肉豆腐 ・里芋の和風ポテトサラダ ・春菊と浅利のピリ辛スープ ・とろとろプリン 	7名	
2月16日 (土) 福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・ソースかつ丼 ・ホタルイカの酢味噌がけ ・筍のみそ汁 ・杏仁フルーツポンチ 	6名	
3月16日 (土) 村田	<ul style="list-style-type: none"> ・たけのご飯 ・海老とアボカドのチーズ春巻き ・高野豆腐の含め煮 ・キャベツみそ汁 ・イチゴ入り桜餅 	5名	

8) しらさぎ健康料理教室開催によるしらさぎの里の役割

平成21年度から毎月地域の団塊世代を対象としたゆたりん料理教室を継続開催し、平成24年度から名称をしらさぎ料理教室と変更しました。平成28年度からは「しらさぎ健康料理教室」とし、2か月に1回毎回テーマを決めて食に関する健康講座を開催し、それに関連した調理実習を実施しました。地域貢献事業として管理栄養士が講師となり地域住民

への食と健康に関する知識の普及啓発を行いました。

～実施状況～

実施日／ 講座内容	献立	参加者 人数	
5月24日 (木) 肌のリズムを 整える食事	<ul style="list-style-type: none"> ・鰹のユッケ丼 ・南瓜の金平 ・豆乳茶碗蒸し ・キャベツのポターージュ ・豆腐クリームケーキ 	9名	
7月26日 (木) 熱中症予防の ための食事	<ul style="list-style-type: none"> ・明太子ご飯 ・トンテキ ・梅じゃこそうめんサラダ ・オクラと長芋の塩昆布和え ・キウイ大福 	9名	
9月27日 (木) 健康な体をつくる油の 賢い摂り方	<ul style="list-style-type: none"> ・秋刀魚の蒲焼き炊き込みご飯 ・豚巻きトマトステーキ ・お豆たっぷりツナのサラダ ・春菊と浅利のピリ辛スープ ・ベークドチーズ風ケーキ 	11名	
11月22日 (木) 腸活で 健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・玄米のトマトリゾット ・根菜ハンバーグおろしポン酢ソース ・わかめと茗荷のサラダ ・押し麦のヨーグルトスープ ・ふるふるりんごゼリー 	8名	
1月24日 (木) 骨コツ 健康メニュー	<ul style="list-style-type: none"> ・じゃこと菜っ葉のごはん ・鶏ひき肉の信田煮 ・ツナと切干大根の中華サラダ ・減塩みそ汁 ・牛乳もち 	7名	
3月28日 (木) 血糖値が 気になる方に	<ul style="list-style-type: none"> ・中華あんかけ焼きそば ・大根餃子 ・酸辣湯 ・水切りヨーグルトのチーズケーキ 	7名	

平成30年度

事業報告書(案)

デイサービスセンターしらさぎ

1. デイサービス利用状況

(月別平均利用者数)

	月別平均利用者数		月別平均利用者数
4月	26.2名	10月	26.2名
5月	25.3名	11月	25.7名
6月	24.7名	12月	24.7名
7月	25.1名	H31.1月	24.2名
8月	24.6名	2月	24.5名
9月	24.1名	3月	23.7名

年平均 24.9名

介護度別平均利用者数

(総合事業)

	要支援1	要支援2
利用者数	3名	14名

(通所)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
利用者数	22名	14名	8名	2名	1名

平均介護度 1.9

(利用者年齢構成)

	男性	女性	合計
～69歳	1	0	1
70～74歳	2	3	5
75～79歳	5	1	6
80～84歳	4	10	14
85～89歳	8	28	36
90～94歳	6	20	26
95～99歳	0	5	5
100歳～	0	1	1
合計	26	68	94

平均年齢	83.9	87.7	86.6
最低年齢	68	71	
最高年齢	94	100	

1. 住み慣れた地域での生活

1) 個別ケアへの対応について

利用者の状態、生活環境を踏まえた上で、在宅での生活を継続するための援助を全職員で検討し、必要に応じた個別ケアを提供しました。

2) 活動意欲向上のための取り組みについて

身体機能の維持・向上と同世代の方との交流により、生活意欲の向上につなげました。例えば、職員が各テーブルにつきゲームなどを行い、コミュニケーションが取りにくい方も含めて、交流を円滑に図ることができるように支援しました。

3) 課題解決のための取り組みについて

利用者・ご家族の困り事に対しては、ケアマネジャーと相談して一緒に解決策を考え、在宅での生活が継続できるように、多角的な視点から色々な方法を提案しています。

4) 機能の維持改善への取り組みについて

身体機能・認知機能の維持改善については、数値で評価するなど分かりやすく表示し、半年に1回、データを連絡帳に挟んで家族に報告、ケアマネジャーにも同様に報告し、今後の取り組み内容などを共に検討し、機能の維持改善につなげています。

2. 利用者の確保について

1) 多様なニーズに対する積極的な取り組みについて

デイサービスセンターしらさぎでは、中重度者や認知症の方を積極的に受け入れています。30年度は、胃ろう、導尿、食事制限のある方などを積極的に受け入れました。

受入体制としては、特に留意すべき点を情報共有し、ご家族と細目に情報交換の機会をもち、中重度であっても安心してご利用いただける体制づくりに努めています。

2) 利用促進に向けた啓発活動について

『デイサービスセンターしらさぎ新聞』を毎月発行し、その月の取り組みや利用者の様子、季節に応じた生活の豆知識、また次の月の予定などを記載し、居宅介護支援事業所等の事業所やミニデイ、生きがいデイの参加者、地域住民に発信しています。

また、地域のふれあいサロンに参加し、地域住民に新聞やチラシを配布し、生活状況をうかがうなど、コミュニケーションを通じていつでも相談できる関係を築いています。

健康志向の高まりに対しては、機能訓練指導員による機能訓練指導の定着化を目指し、訓練指導を受けた利用者からの感想などを取り上げたチラシを作成してわかり易く機能訓練の重要性を伝え、普及啓発を行いました。

3) 利用定着化に向けた活動について

利用中の様子や健康状態などに細かい配慮を行い、連絡帳の活用や送迎時を利用した

きめ細かい情報の交換を行い、ご家族が安心してご利用いただけるように努めています。

特に健康状態の変化については、早めの受診をお勧めしています。お休みをされている方や入院中の方については、ケアマネジャーから情報を得、こちらからも訪問させて頂くなどして近況を把握し、ご利用の再開についての相談に応じています。

外部からの紹介を頂いた時には、まず訪問してご本人の様子を確認し、新聞や案内用パンフレット等を用いてわかり易く説明し、目的を明確にしたうえで利用をお勧めしています。

3. サービスの質の向上について

1) 利用者の意欲向上に向けた取り組みについて

利用者の趣味を生かした個別レクリエーションでは、集中力を維持することに着目した取り組みを行っています。

また、自宅での自立した生活が継続できるように、施設沿いの坂道を活用して歩行訓練を行うなど下肢筋力強化、バランス運動などを行っています。消極的な方に対しては、ゲーム性を持たせて宝探しの要素を取り入れて参加を呼びかけ、動機付けを行いました。

2) 利用者間の交流促進について

グループレクリエーションでは、各テーブルに職員を配置してゲームや脳トレーニングなどを行い、利用者同士での交流が図りにくい方でも他者との交流を図り、一緒に楽しむことができる環境づくりを行っています。またそうすることによって、職員も利用者の特徴や変化に気づく事が出来たりしています。

3) 機能訓練の充実化について

機能訓練指導員の配置により、デイサービスにおける機能訓練の充実化を図りました。成果としては、利用者の意欲向上や身体の痛み軽減などの効果が確認できています。

4.

(年間行事)

開催月	行事内容
4月	花見、おやつ作り（ロールクレープ）
5月	避難訓練、お楽しみ会（踊り）
6月	あじさい・案山子ドライブ、おやつ作り（たこ焼き）、喫茶店（コメダ）
7月	そうめん流し、スイカ割大会
8月	ミニ夏祭り
9月	敬老会（シンクロ）、おやつ作り（ロールサンド）
10月	避難訓練、ミニ運動会、おやつ作り（スイートポテト）
11月	おやつ作り（アップルパイ）
12月	クリスマス会、

H31.1月	初詣（あじさい寺）、新年会（寄せ鍋）、おやつ作り（たこ焼き）
2月	節分、おやつ作り（ホットケーキ）
3月	菜の花ドライブ、おやつ作り（おさつバター）

※お誕生会は、毎月開催しています。

5. 他事業所及び地域との連携

1) 他事業所との連携について

居宅介護支援事業所や地域包括支援センターには、毎月1回の報告書と状況に変化がある時にはその都度電話連絡し、きめ細やかに情報交換と情報共有を行っています。

担当ケアマネジャーからは、自宅での利用者の様子を聞き、デイサービスでの取り組みを活かしてより自立した在宅生活を継続、維持できるように支援しています。

2) 地域との連携について

地域ミニデイでは、参加者からの声を情報として参加にし取り組みに活かしています。

自宅で出来る体操、頭の体操、そして介護予防の要素を取り入れたレクリエーションを通じて楽しく他者との交流を図ることができる機会を提供し、介護予防の普及啓発に努めています。

また、地域の集まりに参加し、認知症予防や転倒予防の体操などの普及啓発に合わせて、デイサービスセンターしらさぎの取り組みなどを紹介しPRを行っています。地域の方からの介護相談にも応じ、地域からの情報収集にもその場を活用しています。

（地域ミニデイ月平均参加者数）

下構総合センター	7名
太市中公民館	11名
太市西脇公民館	5名
山田・松山公民館	7名
アットホーム	4名

（生きがいデイサービス）

月	一日平均利用者数	月	一日平均利用者数
4月	8名	10月	7名
5月	9名	11月	7名
6月	8名	12月	7名
7月	9名	H31.1月	6名
8月	8名	2月	7名
9月	9名	3月	8名

一日平均利用者数 8名

6. 職員の質の向上について

(施設外研修)

日程	研修名	参加者
5月16日	新任職員研修会	三木
8月16日	デイ部会職員研修	山本
9月27日	感染症対策セミナー	小村
10月16日	介護保険サービス事業者に対する集団指導	山本
10月22日	デイサービスにおける自立支援とアセスメント	三木
H31.1月18日	現場職員のモチベーションアップ研修	福原
2月5日	デイ部会「管理者研修」	山本
3月25日	変更届の簡素化に関する説明会	山本

(施設内研修)

研修月	研修名	担当
4月	接遇マナー・倫理法令順守について／心肺蘇生実習	福原
5月	緊急時の対応方法について	三木
6月	三大介助について	三木
7月	移乗介助について	福原
8月	高齢者虐待・身体拘束の防止について	福原
9月	車両事故及び緊急時対応	三木
10月	利用者の健康管理について	上田
11月	認知症予防と体操について	三木
12月	感染症について	上田
H31.1月	個人情報とプライバシーについて	福原
2月	リスクマネジメントの考え方	福原
3月	口腔ケアについて	三木

1) 外部研修への参加について

デイサービスの取り組みに活かせる外部研修には積極的に参加し、研修内容を踏まえた内部研修（報告会）を開催し、研修で学んだことをどのように取り入れ現場に生かしていくのかを職員間で検討し、業務改善や取り組み内容の充実化につなげています。

2) 施設内研修の開催について

施設内研修では、基本的な部分を再確認し、各自の普段の業務の振り返りや新しい問題点などを話し合い、改善を図るようにしています。

7. 健康管理について

1) 健康管理について

- i 感染症予防のために来所時や外出時の手洗い・うがいを徹底しています。
- ii 自宅で体調不良や転倒などの事故があった場合などについては、ご家族から連絡帳を利用してご報告いただいています。連絡内容に基づき、利用中の様子観察を行い、ご状態によっては速やかに受診をお勧めしています。その場合、受診結果やその後の様子をうかがい、慎重に経過観察を行っています。
- iii 利用者が、利用中に体調悪化あるいは怪我をされた場合には、速やかにご家族に連絡し、対応について助言、内容によっては受診をお勧めしています。

2) 感染症対策について

- i 感染症予防のために来所時や外出時の手洗い・うがいを徹底し、姫路市での感染症発生状況をこまめに把握し、予防対策に努めています。
- ii 利用者・ご家族にはお知らせを配り、自宅での様子観察や変化について報告を頂くようご協力をお願いしています。
- iii 連絡帳には、利用当日朝の体温を記入していただき、来所時にも検温を行い、感染症の流行期には、昼食後の検温も行っています。体調変化の早期発見、蔓延予防に努めています。
- iv 体調が不安定な方には、こまめに経過観察を行い、ご家族との連絡を密にとり、状況によっては受診をお願いしています。
- v 受診の結果を確認し、デイサービスのご利用中に注意すべき点があれば職員間で周知徹底を図り、様子観察や必要な処置を行っています。
- vi 利用中の体調変化や体重の増減、食事の摂取量など色々な角度から観察をおこなっています。
- vii 利用者には体操で身体を動かして頂き、健康増進につなげています。
- viii 職員についても、来所時と昼食後に検温し、体調観察や健康管理を行っています。

8. 経費削減について

- 1) 備品の消耗・摩耗を軽減し、長く使用できるように定期的に掃除やメンテナンスを行っています。ゲームや製作に使用するものは自宅で不要になった物やある物を活用し、経費削減の為に手作りするなど、購入するものを極力控えるように努めています。光熱費は必要のない電気は切るようにすることはもちろん、送迎時の配車なども出来るだけ無駄のないようにコースを組むなどに努めています。

(事故件数) 5件

内訳： 利用者に関する事 (転倒・・・1件 喉詰め・・・1件 その他・・・1件)
送迎車に関する事 (送迎車の損傷・・・2件)

平成30年度

事業報告書(案)

居宅介護支援事業所
しらさぎ在宅介護支援センター

1 サービス提供計画 について

- i 毎月、担当利用者の自宅を訪問して、モニタリング等を行い、利用者の心身状態や生活状況を把握しました。また家族の介護疲れにも留意しました。
- ii 利用者や家族に納得してもらえるように、必要なサービスを調整し、利用して頂きました。緊急時には、安全が確保でき、安心した生活ができるように、ショートステイやサービス付き高齢者住宅などをご紹介して、利用できるようにしました。
- iii 特定事業所加算Ⅱを算定しているため、営業時間以外は、転送電話により、24時間連絡体制をとり、介護相談などの相談等を行いました。必要時には、関係機関に連絡をとり、早急に対応しました。
- iv 公正中立なケアマネジメントを行うために、介護保険のサービス事業所の内容や特徴などを知り、情報提供しました。また、法人のサービスだけをご紹介するのではなく、利用者や家族の希望で、サービスを調整していき、自宅での生活を継続できるように支援しました。
- v 同居家族がいるが、介護に理解なく、しっかり介護できていないケースも増えてきました。事業者内でケース会議を行い、利用者の権利擁護に留意し、高齢者虐待の防止ができるように、地域包括支援センターなどの関係機関に相談しました。また、必要に応じて、施設の入所やサービスの調整をし、介護サービスを受けながら、自宅や施設で生活を送ることができました。

2 経営基盤充実のための取り組みについて

- i 年間稼働率の目標を93%、月の売り上げを200万円にしておりましたが、平成30年度の稼働率が84.5%、月の売り上げが、平均178万円で、目標の達成ができませんでした。
- ii 新規は、介護給付が58件、予防給付が7件ありましたが、施設入所が、13件、入院21件、死亡終了14件あり、新規は、介護給付が月4.8件、予防給付が月0.6件ありましたが、新規はあるものの、終了が多かったため、稼働率を上げることができませんでした。
- iii 急遽、自宅での生活が困難になった時に、空きがなかったこともあり、他施設を紹介することが多かったが、法人のショートステイが利用できるように連携し、特別養護老人ホームに入所できるまでの関わりを持ち、信頼関係を得ることで、紹介依頼が増えるように、今後も努力していきます。

- iv 受託事業である認定調査は、姫路市や姫路市以外から依頼があれば積極的に受け、平成 29 年度は 41 件でしたが、平成 30 年度は 60 件になり、増やすことができました。
- v コスト削減に心掛け、物品は大切に扱うようにし、必要以上に物を購入せず、事業所内でも経費を削減しました。
- vi 安定した事業運営に取り組むために、介護支援専門員が各自で担当件数を管理し、計画的に新規利用者の獲得を目指しました。
- vii 新規の依頼時は、迅速な対応を心掛けたため、病院、地域包括支援センター、ケアハウスなどからのご紹介を増やすことができました。
- viii 予防給付は、平成 29 年度に比べると新規は少なかったですが、平均 29.3 件の担当があり、年間 127 万円の収益があがりました。予防給付の方は比較的元気な方が多いことから、リハビリの希望があるので、デイサービスと連携し、依頼に対し積極的に対応していきます。

ケアプラン作成件数 予防給付

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援受託	33	32	31	29	29	29	30	28	28	28	27	28	352

3 サービス利用のための事業所同士の連携強化について

- i 医療機関との連携については、入院や退院時には、主治医や病院の担当者と連携し、カンファレンスへの参加や情報交換を行い、利用者の支援内容や方法について意見を聞き、自宅での生活を続けられるように調整しました。
- ii 対応困難なケースには、併設の特別養護老人ホームしらさぎの里・兵庫式 24 時間 LSA 地域見守り事業（しらさぎ見守り隊 24）・デイサービスセンターしらさぎや地域包括支援センターなどの関係機関とも連携を図り、利用者や家族が、安心して生活を送ることができるようにしました。

新規利用者 受け付け

申込先	平成 29 年度	平成 30 年度
ご家族、本人	30	32
書写林田地域包括支援センター	4	10
大白書地域包括支援センター	4	11
その他の地域包括支援センター	1	1
民生委員、後見人	1	1
病院	7	8
居宅介護支援事業者	0	2

他事業所(福祉用具事業所・サービス付高齢者住宅)	2	3
合計	49	68

4 介護支援専門員としての質の向上とメンタルヘルスについて

- i 特定事業所加算算定しているため、加算要件を満たすため、努力しました。また地域包括支援センターが行う、介護支援専門員ブロック研修の企画立案、運営に対してのリーダーとしても参加しました。
- ii 質の高いケアマネジメントを行えるように、外部研修の参加や内部研修を行い、多様に変化する介護保険制度に円滑に対応できる体制を築きました。
- iii 専門職であるという意識を持ち、介護支援専門員としての、必要な制度等の知識を習得し、また制度改正時には、新しい情報を提供して、利用者にとって不利益にならないようにしました。
- iv 事業所内で、週1回の事業所連絡会議を行い、担当ケースについて一人で悩むことが無いように、事業所全体で問題の解決方法を検討しました。
- v 担当者が不在でも、情報交換をしっかりと行い、常に、相談があれば他の職員でもそのケースに対応ができる体制を築きました。
- vi 日々相談業務に携わる職種であるため、ストレスによるバーンアウトを引き起こさないように、心身の健康管理には、十分配慮しました。

平成30年度 地域交流講習会

開催日	テーマ	講師	場所
平成30年 5月16日	ロコモティブシンドロームを 予防しよう	姫路中央保健福祉サービスセンター 安富分室 保健師	アットホーム 林田しらすぎ
6月13日	簡単ストレッチ体操	シニアヨガインストラクター 堀江 義史氏	アットホーム 林田しらすぎ
9月30日	プロから学ぶ・家でもできる 「体を動かして元気に暮らそう」	作業療法士 武田照麻氏	アットホーム 林田しらすぎ
11月21日	心不全について	佐野内科ハートクリニック 院長 佐野一成氏	アットホーム 林田しらすぎ
平成31年 1月24日	全身もみまぐし体操	理学療法士 池津敏也氏	アットホーム 林田しらすぎ

平成30年度 外部研修

開催日	研修名称等	出席職員	開催場所
平成30年 5月17日	3部会合同勉強会	福岡	姫路文化センター
5月26日	高齢者にやさしい街づくり研修	松下	姫路西市民センター

6月14日	安富町事例検討交流会	松下	安富公民館
7月11日	ケアマネジメント向上会議	富永・長谷川	姫路市医師会館
7月18日	西南ブロック包括的継続的 ケアマネジメント研修	福岡・富永・松下	白鳥城
8月27日	姫路市集団指導	富永	姫路文化センター
9月19日	ケアマネジメント力向上会議	福岡	姫路市医師会館
9月19日	西南ブロック包括的継続的 ケアマネジメント研修	富永・松下・長谷川	白鳥城
10月16日	介護保険サービス事業所に対する集 団指導	福岡	姫路文化センター
10月17日	事例検討会	松下	デイサービスはくちょう
11月20日	西南ブロック包括的継続的 ケアマネジメント研修	福岡	白鳥城
11月29日	事例検討会	松下	デイサービスはくちょう
12月10日	介護支援専門員業務研修受け入れ事 業所説明会	福岡	西宮市民会館
平成31年2月14日	西南ブロック包括的継続的 ケアマネジメント研修	富永・松下	白鳥城
3月1日	介護保険住宅改修・福祉用具研修会	富永	姫路市役所
10月25日～ 3月8日	介護支援専門員更新研修	松下	神戸ファッション マート他
3月25日	変更届等の簡素化に関する	福岡	姫路文化センター

平成30年度 内部研修（開催場所：事業所内）

開催日	研修名称等
平成30年4月3日	平成30年度介護報酬改正について
5月2日	軽度者に対する福祉用具貸与の取り扱いについて
6月26日	食中毒について
7月18日	認知症の人の尊厳について
8月2日	ガン末期の利用者に対しての専門職について
9月13日	災害におけるケアマネの役割について
10月29日	権利擁護について
11月6日	事例をもとに精神疾患を理解する
12月5日	公正・中立性の確保について
平成31年1月10日	苦情処理の対応について
2月25日	多職種連携について
3月5日	「高齢者虐待について」在宅の利用者の場合

5 地域貢献事業について

i 地域で介護相談窓口の開催

六九谷公会堂（H30.5 /5、7月中止、9/1、11/3、H31. 1/12、3/2 ）

ii 勉強会の開催

六九谷ふれあいサロン（H30.5/5）

『日常生活を見直して 認知症を予防しましょう』

林田地区 民生・児童委員及ぶ推進委員研修会・交流会（H30.7.12）

『誰もが笑顔で、安全に、安心して暮らせる地域づくりのため、ケアマネジャーとの連携を密にしていきましょう』

太市老人クラブ連合会（H30.11/1）

『介護保険について』

① 介護者教室は、地域の方が参加しやすいように、アットホーム林田しらさぎでも開催しました。

② 介護の予防につなげるため、身体を動かすことができる健康体操の内容を増やしました。

③ 佐野内科ハートクリニックの佐野一成医師を招き、「心不全について」の講演をして頂きました。

④ 地域の方に、専門的な知識を得られる場を提供して、住み慣れた自宅で生活を送ることができるように、日頃から、体調の変化についても早めに気付き、医療との関わりが重要であることを伝えました。

今後も、勉強会や介護者教室を定期的に開催して、地域福祉の拠点になれるように努力します。

⑤ 「しらさぎふれあいサロン」をアットホーム林田しらさぎでも開催し、地域の方が参加しやすい環境作りにも工夫しました。

⑥ また地域のボランティアグループに協力を得て、開催することができました。

⑦ 外出する機会の一つになるように、独居の方やサービスが終了となった家族様にも声かけを行い、同世代の方の交流や楽しみの場になるようにしました。

⑧ 施設以外で、月 2 回アットホーム林田しらさぎ、2ヶ月に 1 回六九谷公会堂で介護相談窓口を開きました。

アットホーム林田しらさぎでの開催は、営業日でない日に開催し、周知ができていなかったことにより、相談件数が少なかった。

平成 31 年度は、相談件数が増えるように、行事の日などに開催し、介護相談が気軽にできるような条件を整えていきたいと思えます。

6 介護報酬改正について（変更点）

ターミナルケアマネジメント加算が新設され、該当されれば、月 400 単位を加算できましたが、末期の悪性腫瘍の利用者を担当させて頂き、自宅で看取ることもできましたが、最終的には、本人やご家族の判断で、病院を選択されることが多く、平成 31 年度は該当することができませんでした。

今後も、主治医からの紹介やご希望があれば、最期まで支援できるように、ターミナルのスキルを高め、医療との連携ができるように努力していきます。

認定調査実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施件数	3	5	6	6	8	2	6	3	6	10	3	2	60

介護給付

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	45	44	45	48	49	50	53	54	54	54	55	54	605
要介護2	25	24	24	27	24	23	22	23	23	22	20	22	279
要介護3	17	16	16	14	15	17	18	18	16	18	20	20	205
要介護4	10	8	9	11	8	9	7	6	7	7	9	7	98
要介護5	3	5	4	5	6	5	4	4	5	5	4	6	56
													1243

以上

平成30年度

事業報告書(案)

姫路市大白書地域包括支援センター

1 職員体制

- ・統括責任者…1名（兼任）
- ・保健師等…1名
- ・社会福祉士…1名
- ・主任介護支援専門員…1名
- ・認知症担当…1名
- ・指定介護予防支援従事者…3名

2 活動実績

1) 相談総数（件）

電話	来所	訪問	その他（メール・FAX）
435件	173件	163件	2件

2) 相談者総数 (件)

本人・ 家族	行政機関 (市役所)	行政機関 (警察)	他の 地域包括	ケアマネ	サービス 事業所	医療機関	他の 関係機関	民生委員	地域団体
655 件	40 件	4 件	12 件	116 件	85 件	86 件	10 件	20 件	50 件

3) 相談内容 (重複計上あり)

区分		件数
一般相談	介護予防に関すること	23 件
	介護相談	38 件
	医療・健康相談	82 件
	生活相談	341 件
介護保険制度全般		608 件
総合相談に関すること		4 件
フォーマル サービス	保健福祉関係	16 件
	その他	2 件
インフォーマルサービス		8 件
権利擁護関係	虐待	26 件
	消費者被害	0 件
	成年後見等	24 件
その他		1 件
ケアマネジメント支援		41 件
計		1214 件

4) ケース検討会 (地域ケア会議の開催) … 3 件

相談総数、相談者総数、相談内容の内訳は、ともに昨年度と大きく変りなし。
介護保険や生活に関して、本人や家族からの電話相談が最も多かった。

3 介護予防ケアマネジメントに係る活動

介護予防普及啓発事業

① いきいき百歳体操の活動支援…21 ヲ所

白鳥：柴崎公民館、川西台公民館、実法寺総合センター、フルーツガーデンさかい
西市民センター健康増進室 (2 グループ)、コープつどい場

太市：丸山公民館、相野公民館、石倉公民館

青山：東遠山集会所、西夢前台 1・2 丁目公民館、人丸神社、青山苑、青山西公民館、青山公民館、青山北公民館、青山南山集会所、特養あおやま、教専寺、

一般民家

- ② いきいき百歳体操世話人交流会（青山校区、白鳥・太市校区）
青山校区…特養あおやまにて開催（6/30）
白鳥・太市校区…西市民センター健康増進室にて開催（9/20）
- ③ 認知症サロン 12 ヲ所
白鳥：はつらつ夢クラブ、おれんじサロン、柴崎ピンピンクラブ、
おしゃべりサロン、健康づくりの会、コスモスの会
青山：健康体操夢クラブ、東遠山さくらサロン、レモンクラブ、
青山北いきいきサロン、花水木の会
太市：相野すみれサロン
- ④ 認知症サロン交流会（西保健福祉 SC 11/9）
- ⑤ 認知症サポーター養成講座（4 ヲ所）
青山：花水木の会（9/17）、いきいきサロン（4/18）
白鳥：ヤマト・スタッフ・サプライ（6/2）、コスモスの会（4/4）
- ⑥ 自主活動グループの活動支援…1 ヲ所（男性料理の会）
- ⑦ 男性介護者のつどい（白鳥校区の民家にて毎月開催）
- ⑧ 講座開催
・いきいき相談室（実法寺総合センター）年 10 回
・白鳥公民館講座 年 6 回
・青山老人クラブ第 6 班勉強会（12/8）
・白鳥民生委員勉強会 1 回（6/7）
- ⑨ シルバーヘルパー研修（太市、青山・白鳥）
・青山・白鳥校区（西保健福祉サービスセンター 11/22）
・太市校区（太市公民館 11/1）
- ⑩ 生活・介護支援サポーターの活動支援
地域包括支援センターでの活動 2 名
在宅訪問による活動（コーディネート件数） 1 件
初回同行訪問（マッチング実施件数） 1 件
- ⑪ ふれあい食事会…白鳥校区（毎月）
- ⑫ 白鳥 かのき祭り参加（7/21）
- ⑬ 白鳥 酒井病院交流会出席（酒井病院 11/22）
- ⑭ 太市 敬老祝賀会出席（太市小学校 9/17）
- ⑮ 医師会交流会出席（アルモニーアッシュ 9/13）

介護予防普及啓発事業として、いきいき百歳体操や認知症サロンを中心に、公民館講座やふれあい食事会への出席、認知症サポーター養成講座の開催等を行う。また、単発的に地

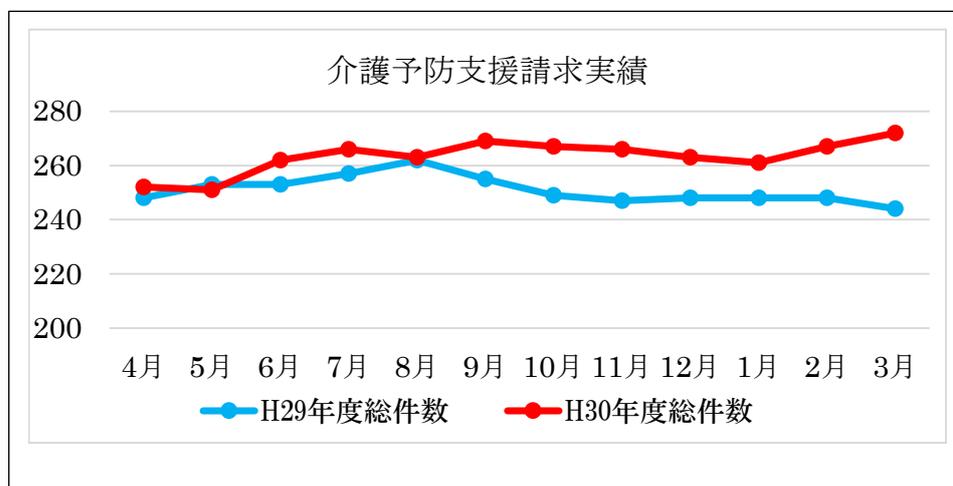
域での勉強会の開催や病院との交流会にも参加し、地域との連携を図った。

4 介護予防支援に係る実績

自前プラン総件数	委託プラン総件数	新規利用者件数
2387件(2304件)	773件(707件)	106件(91件)

※ () 内は前年度

自前プラン総件数は83件、委託プラン総件数は66件、新規利用者数は15件、ともに増加



5 包括的継続的ケアマネジメント

①ケアプラン研修会の開催 (年間4回)

	テーマ	講師	場所	参加数
第1回 (7/18)	価値・倫理について	姫路市消費生活センター相談員 久内和子氏・他	ウエルカムハウス・スワン	42人
第2回 (9/19)	気づきの事例検討会・ケアプランの質の向上	救護施設ジョイガーデン 森田智裕氏	ウエルカムハウス・スワン	41人
第3回 (11/20)	多職種交流・連携「地域の高齢者住宅 理解しておきたい必要な知識」	地域の高齢者住宅関係者	ウエルカムハウス・スワン	32人

第4回 (2/14)	対人援助技術・トピックス「ケアマネあるある」	寸劇・事例紹介 (リーダー)	ウエルカムハウス・スワン	41人
---------------	------------------------	-------------------	--------------	-----

②居宅介護支援事業所の介護支援専門員との同行訪問

(困難事例への対応、委託プランへの対応 計5件)

③介護支援専門員からの相談対応(ケアマネ支援) 41件

④地域包括支援センターだより『ほうかつ新聞』の回覧、配布(毎月15日発行)

目的……………地域の活動に対する理解、協力、連携、情報の周知、啓発・注意喚起等
配布場所… 以下のとおり

- ・各小学校区(白鳥・青山・太市)の自治会長・自治会役員・民生委員・老人クラブ連合会長・老人クラブ会長
- ・各町の公民館
- ・各種サービス事業所
(特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、ケアハウス、小規模多機能、グループホーム、居宅介護支援事業所等)
- ・金融機関、医療機関
- ・その他(自立活動グループ、いきいき百歳体操、認知症サロン参加者など)

6 職員の資質向上のための取組み

1) 姫路市が開催する連絡会及び研修会への参加

- ・社会福祉士 (連絡会3回・うち1回は研修会)
- ・主任介護支援専門員(連絡会3回・うち1回は研修会)
- ・保健師等 (連絡会3回・うち1回は研修会)
- ・認知症担当 (連絡会3回)
- ・管理者連絡会 (4回)
- ・準基幹圏域連絡会(3回)
- ・準基幹圏域認知症担当の連絡会(2回)
- ・社会福祉士連絡会部会(5回)
- ・ふれあい祭り開催(ウエルカムハウススワン 11/15) ※市内センター合同開催
- ・ふれあい祭り企画会議(6/14、7/10、8/16、9/13、10/11、11/1、12/10 計7回)
- ・ふれあい祭り全体会議(5/24、2/17 計2回)
- ・コグニサイズリーダー養成研修 9/28
- ・キャラバンメイト養成研修 7/3
- ・ケアマネジメント力向上会議 (7/11、10/14、11/14、12/12 計4回)

※うち、7/11は大白書包括より事例提供。

- 2) 広域的に開催される連絡会及び研修会（外部研修会等）への参加
- ・姫路市社協ふれあいネットワーク研修会（7/11）
 - ・平成30年度集団指導及び平成31年度介護報酬改定等説明会（10/16）
 - ・西播磨地域包括・在宅介護支援センター連絡協議会総会（11/27、3/1）
- 3) 内部研修会の開催（年12回）

開催月	研修内容	担当者
4月	個人情報・プライバシーの保護について	
5月	倫理と公正中立性の確保について	
6月	法令遵守について	
7月	認知症の予防と対策について	
8月	地域包括ケアについて	
9月	権利擁護について	
10月	高齢者の健康管理と栄養について（健康なお口でいきいき生活）	
11月	精神保健について	
12月	事故発生時の対応について（自分の命は自分で守ろう）	
1月	ケアマネジメント力の向上について	
2月	高齢者虐待防止とその対応について （総合相談・ソーシャルワークについて）	
3月	住み良い住環境づくりについて（上手な福祉用具の使い方）	

7 災害対策に向けた地域との連携

西市民センター合同消防避難訓練

8 その他

- ・定例会議 毎月開催（毎月、事業計画の進捗状況の振り返り及び方針検討）
- ・苦情解決委員会 偶数月・年間6回（年間の苦情相談発生件数 1件）
- ・運営推進会議
 - グループホーム、小規模多機能ホーム…各2か月に1回
（サザンツリー、小規模多機能ホームさかい、サンホーム青山）
 - 地域密着型デイ…各半年に1回
（エミオ、アンジュケアサービス、シャングリラ、やすらぎ、あおやま、はなのいえ）
- ・姫路市医療介護連携会議（10/22、12/10 計2回）
- ・姫路市地域包括支援課による実地指導（8/2）
- ・実習生の受け入れ…姫路赤十字看護専門学校（9/18、9/25、10/12、11/19 4回 各2名）
国立姫路医療センター附属看護学校（12/20 1回 2名）
あんしんサポーター養成実習（9/27 1回 1名）

平成30年度

事業報告書

アットホーム林田しらさぎ

地域の高齢者が集い、交流を図り、日常生活の不安解消や社会とのつながりを維持することが出来る地域福祉の拠点として介護予防を推進し、高齢者の活動の場が広がるように支援しました。

1 地域ニーズに応じた活動

- 1) 地域包括支援センター・地域各種団体との連携を通じて、地域ニーズの把握に努めました。
 - ・ 地域交流講習会や体操教室等を開催し、地域住民に広く案内して参加者を募りました。
 - ・ アンケート用紙と意見箱を設置し、地域の声を集めるための手段としました。
 - ・ 有償ボランティアとの情報交換をする機会を設けました。
 - ・ 催しの参加者とコミュニケーションを持ち、地域住民からのニーズの把握に努めました。
- 2) 地域における介護予防や当事業所の役割・存在意義の理解を広め、サービス拠点として機能の充実化を図ります。
 - ・ ふれあいサロン運営の現状を踏まえ、都度有償ボランティアと意見を交わしながら体制の見直しを行いました。
 - ・ 地域交流講習会や体操教室等を開催し、介護予防や介護技術などの知識やノウハウを活かした情報提供を行い、在宅介護をサポートしました。
 - ・ 催しの参加者が気軽に相談できる機会として、介護なんでも相談会を開きました。

2 介護予防について

- 1) 地域の高齢者が安心して生活を送ることが出来るように地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・LSAと連携し、地域における見守り機能を果たしました。
 - ・ 24時間見守り支援の電話と訪問を手段とした安否確認と随時相談対応を実施。
- 2) 社会福祉事業としての事業立ち上げを断念し、移動支援を含む地域支援事業をH30年度からの新たなサービス拠点整備として検討しました。
 - ・ 姫路市における総合事業に関して、通所型の実現には人員の確保と持続可能な収支の見込みが得られないため、数年来地域から要望があった訪問サービスD型（移送サービス）に着目し、姫路市（地域包括支援課、高齢者支援課、交通企画室）や兵庫県（高齢政策課）などとの相談を持ち、実現の可能性を探りました。
結果、手続きに時間を要し、先行事業者との競合と捉えられかねないため断念。

- ・ 生きがいデイサービス事業の受け入れ先とすることを姫路市高齢者支援課と相談。結果、床面積が必要定員数確保の条件に及ばず断念。
 - ・ 福祉用具販売及び貸与事業所とすることを姫路市、先行事業者等と相談し検討。結果、単独事業としては人件費に対する収益性が十分ではないため、断念。
- 3) 認知症勉強会・ミニデイ・ふれあいサロン・介護者の集いなどを開催し、高齢者の閉じこもり予防や地域交流の場としての役割機能を発揮しました。
- ・ ふれあいサロンの開催
(毎週月・火・木・土の週 4 回、10:00~15:00 の 3 時間で開催)
 - ・ 地域交流講演会(介護者教室)の開催 年間 5 回
 - ・ ミニデイサービス(予防体操教室)の開催 年間 12 回
- 4) 誰でも気軽に足を運べる身近な相談窓口として活動し、介護に関する悩みの相談に応じたり、地域住民との意見交換を行うなど、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送れるように支援しました。
- ・ 介護何でも相談室 年間 21 回
 - ・ ふれあいサロンの開催を通じて、身近な窓口として地域の相談を随時受付、多様な問題解決機能を発揮するため、法人の各部門とのコーディネート機能を果たし、必要な支援や手続きに結び付けました。(生きがいデイサービス、居宅介護支援など)

5) アットホーム林田しらさぎ・ふれあいサロンの運営状況について

《ふれあいサロン利用延べ人数》 年間利用延べ人数 3,148 人

《ふれあいサロン利用料合計》 $3,148 \times 100 \text{ 円} = 314,800 \text{ 円} \dots \textcircled{1}$

《月当たりの利用者延べ人数》 《運営に要した費用》

開催月	利用人数
平成 30 年 4 月	216 人
5 月	265 人
6 月	258 人
7 月	272 人
8 月	244 人
9 月	170 人
10 月	258 人
11 月	275 人
12 月	326 人
平成 31 年 1 月	306 人
2 月	307 人
3 月	251 人
合計	3,148 人

項目	金額
菓子代	87,409 円
電話料金	45,562 円
電気料金	50,518 円
水道料金	22,155 円
ボランティア料	286,584 円
火災保険料	162,975 円
合計	<u>655,203 円</u> … $\textcircled{2}$

《収支差額合計》

$$\textcircled{1} - \textcircled{2} = \triangle 340,403 \text{ 円}$$

平成30年度 施設外研修一覧

日程	研修内容	参加者	会場
4月10日	姫路市地域包括支援センター連絡会総会	施設長・大崎	姫路市役所
4月13日	定時評議委員会までの決算手続き説明会	施設長	姫路市役所
4月13日	地域包括支援センター新任職員研修	満田絵	田中興産ビル
4月20日	バリアフリー2018	春本・渡部	インテックス大阪
4月23日	地域包括支援センター社会福祉士研修担当部会	大崎	姫路市役所
5月1日	老人福祉施設新任職員研修	橋本	兵庫県社会福祉研修所
5月10日	入江病院 糖尿病ケアセミナー	福岡友	サンシャインホテル青山
5月15日	兵庫県社会福祉法人経営者協議会 総会・記念講演会	理事長	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
5月16日	老人福祉施設連盟 新任職員研修会	三木	姫路商工会議所
5月17日	3部会合同勉強会	福岡恵	姫路市文化センター
5月21日	介護報酬改定に伴う加算所得方法に関する研修会	宮崎	兵庫県福祉センター
5月21日	新規学校卒業者を対象とする求人取り扱い説明会	理事長	姫路キャスルホテル
5月22日	姫路市老人福祉施設連盟総会	施設長	姫路市医師会館
5月23日	衛生講習会	水戸	イーグレ姫路
5月24日	姫路市栄養管理研修会	村田	姫路市防災センター
5月24日	老人福祉施設新任職員研修	船引	姫路商工会議所
5月26日	高齢者にやさしい街づくり研修会	松下	姫路市西市民センター
5月7・29日	チームマネジメントリーダー研修	井貫	兵庫県社会福祉研修所他
5月29日	在宅医療勉強会	施設長	姫路市医師会館
6月1日	社会福祉施設指導監査説明会	事務長	姫路市役所
6月6日	姫路市老人福祉施設連盟栄養士部会総会	福岡友	姫路市勤労市民会館
6月13日	算定基礎届事務説明会	事務長	姫路市文化センター
6月14日	安富町事例検討交流会	松下	安富公民館
6月21日	脳血管障害の症状と対応研修	菅	西播磨総合リハビリセンター
6月25日	会計実務基礎講座 スクーリング	森	兵庫県社会福祉研修所
6月27日	本覚寺苑法人職員研修への講師派遣	施設長	山彦第2ディサービス
6月27日	姫路市社会福祉施設協議会総会	理事長・村田	イーグレ姫路
7月3日	キャラバンメイト養成研修	満田絵	兵庫県民会館
7月6日	安全運転管理者講習	事務長	姫路市民会館
7月11日	姫路市老人福祉施設連盟栄養士部会研修会	柳田	姫路市勤労市民会館
7月11日	ケアマネジメント力向上会議	富永・長谷川	姫路市医師会館
7月11日	ふれあいネットワーク事業研修会	大崎	姫路市勤労市民会館
7月12日	避難確保計画作成に関する説明会	施設長	姫路市防災センター
7月12日	地域包括支援センター全体研修会	富田・青田	姫路市役所
7月18日	西南ブロックケアマネージャー研修会	福岡・富永・松下	ウエルカムハウススワン
7月25日	西播磨地域包括・在宅介護支援センター連絡協議会総会	大崎・富田・竹田・山田	姫路市医師会館
7月26日	事業所整備に関する説明会	施設長	姫路市役所
7月26日	姫路市栄養管理研修会	森下	手柄山交流ステーション
7月26日	兵庫県社会福祉法人経営者協議会7月例会	理事長	神戸メリケンパークオリエンタルホテル
8月3日	地域包括支援センター全体研修会	大崎	姫路市役所
8月16日	兵庫県老人福祉事業協会 ディ部会 職員研修	山本	兵庫県福祉センター
8月20日	姫路市老人福祉施設連盟 施設長研修会	施設長	ホテル日航姫路
8月21日	西南ブロック主任ケアマネ連絡会	福岡・富永・松下	ウエルカムハウススワン

4月24日～8月23日	介護支援専門員更新研修	竹田	兵庫県社会福祉研修所他
8月27日	姫路市集団指導	富永・大崎	文化センター
8月30日	地域サポート型施設推進事業説明会	施設長	兵庫県中央労働センター
8月29日・9月5日	高齢者虐待対応力向上研修	苗村・伊藤	姫路労働会館
9月6日	在宅医療推進に向けた地域交流会の開催	大崎・青田	アルモニーアッシュ
9月12日	姫路市老人福祉施設連盟栄養士部会研修会	柳田	姫路市勤労市民会館
9月19日	ケアマネジメント力向上会議	福岡恵	姫路市医師会館
9月19日	西南ブロック包括的継続的ケアマネジメント研修	富永・松下・長谷川	ウエルカムハウススワン
9月19日	事例検討会	松下	ディサービスセンターはくちょう
8月20日～9月20日	介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修	井原	兵庫県福祉センター
9月27日	感染症対策セミナー	小村	姫路市役所
9月27日	姫路市栄養管理研修会	福岡友	姫路南保健センター
9月27日	チームアプローチ実践研修	満田佑	兵庫県社会福祉研修所
9月27・28日	生活を向上させるための介護技術編	高濱	西播磨総合リハビリセンター
9月28日	認知症予防体操リーダー養成研修	満田絵	小野市うるおい交流会館
10月1日	地域サポート施設認定証交付式	施設長	兵庫県民会館
10月4日	介護職員等の終末期ケア対応向上研修会	米澤	兵庫県福祉センター
10月16日	介護保険サービス事業者に対する集団指導	有末・山本・福岡・渡部・佐野・大崎	姫路市文化センター
10月17日	事例検討会	松下	ディサービスはくちょう
8月22日～10月17日	認知症介護実践リーダー研修	中畑	ハーベスト医療福祉専門学校
10月18日	生涯現役社会 ワークショップひょうご	事務長	神戸市産業振興センター
10月18日	姫路市老人福祉施設連盟 栄養士部会研修会	柳田	姫路市勤労市民会館
10月25日	兵庫県社会福祉法人経営者協議会	理事長	ザ マーカススクエア
10月22日	ディサービスにおける自立支援とアセスメント	三木	兵庫県民会館
10月25日	全国地域包括・在宅介護支援センター研究大会	施設長	四日市都ホテル
11月6日	兵庫県栄養士会講演会・展示会	福岡と	姫路商工会議所
11月7日	高齢者雇用管理セミナー	事務長	姫路キャッスルグランヴィリオホテル
11月8日	監事専門講座	世良	新大阪江坂東急
11月14日	姫路市老人福祉施設連盟 栄養士部会研修会	施設長・村田・荒内	勤労市民会館
8月17日～11月15日	認知症介護実践リーダー研修	加納・澤江	西播磨総合リハビリセンター
8月12日・11月19日	会計実務基礎講座	森	兵庫県社会福祉研修所
11月20日	西南ブロックケアマネージャー研修会	福岡・富永・松下・長谷川	ウエルカムハウス スワン
11月22日	酒井病院地域連携交流会	大崎	フルーツガーデンさかい
11月26日	姫路市老人福祉施設連盟 施設長職員研修会	施設長	ホテルモントレ姫路
11月26日	源泉所得税の年末調整説明会	事務長	姫路市文化センター
11月27日	西播磨地域包括・在宅介護支援センター研修会	施設長・大崎	姫路・西播磨地場産業センター
11月28日	シニア人材活用戦略セミナー	事務長	津山市役所
11月29日	事例検討会	松下	ディサービスはくちょう
12月3日	栄養士・調理師研修	水戸	兵庫県私学会館
12月6日	近畿ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会 兵庫セミナー	施設長	神戸クリスタルタワー
12月7日	法人経営トップセミナー	理事長	オリエンタルホテル
12月7日	社会福祉研修 労務管理	施設長	姫路市役所
12月10日	介護支援専門員実務研修実習受け入れ事業所説明会	福岡	西宮市民会館
12月10日	姫路市医療介護連携会議	大崎	姫路市医師会館
12月14日	社会福祉法人財務管理研修	施設長	兵庫県民会館

12月18日	介護支援ボランティア交流会	大崎	姫路市市民会館
12月19日	看護・介護職員研修	菅・木南	のじぎく会館
12月17日	姫路市生活支援体制検討会議	大崎・富田・青田・満田	姫路市役所
1月5日	新年福祉のつどい	理事長	神戸ポートピアホテル
1月11日	「移動」と「食」を支える生活支援体制整備に向けた研修会	春本・渡部	県私学会館
1月15日	高次脳機能障害ケア研修会	船引	西播磨総合リハビリセンター
1月16日	事例検討会	松下	ディサービスはくちょう
1月18日	現場職員のモチベーションUP研修	福原	兵庫県民会館
1月21日	生活支援体制整備事業情報交換会	大崎	兵庫県福祉センター
1月23日	社会福祉施設のコンプライアンス研修	施設長	姫路市役所
1月24日	姫路市栄養管理研修会	福岡友	姫路市防災センター
1月25日	地域包括支援センター保健師看護師連絡会研修会	青田・満田	姫路市防災センター
1月29日	排泄ケア研修	長谷	西播磨総合リハビリセンター
2月1日	「いきいき百歳体操」の現状と今後の展開について	大崎・青田・満田	姫路市医師会館
2月1日	生活支援体制整備事業説明会	大崎・満田	姫路市役所
2月5日	兵庫県老人福祉事業協会 ディ部会「管理者研修会」	山本	兵庫県福祉センター
2月6日	姫路市老人福祉施設連盟 姫路の福祉を考える会	理事長	ホテル モントレ
2月7日	地域マネジメント会議	大崎	姫路市役所
2月13・14日	兵庫県老人福祉事業協会 施設長研修	施設長	ホテルクラウンパレス神戸
2月14日	西南ブロック包括的継続的ケアマネジメント研修	富永・松下	ウエルカムハウススワン
2月19日	社会福祉研修～社会福祉法人会計～	施設長	姫路市防災センター
2月20日	高齢者雇用納付金制度 事務説明会	事務長	姫路・西播磨地場産業セン
2月20日	姫路市老人福祉施設連盟 栄養士部会研修会	水戸	みかしほ学園
2月21日	認知用カフェフォーラム	大崎・満田	姫路キャスパホール
2月23日	終末期における看取り看護研修	米澤	西播磨総合リハビリセンター
2月25日	兵庫県栄養士会 スキルアップ研修 介護報酬改定	村田	兵庫県立のじぎく会館
2月28日	病院機能勉強会	青田	姫路文化センター
3月1日	西播磨地域包括・在宅介護支援センター連絡協議会 研修会	施設長	ホテルモントレ姫路
3月1日	介護保険住宅改修・福祉用具事業研修会	富永	姫路市役所
10月26日～3月5日	介護支援専門員更新研修	山田・竹田	兵庫県社会福祉研修所他
10月25日～3月8日	主任介護支援専門員更新研修	松下	神戸ファッションマート他
3月14日	不在者投票事務説明会	宮崎	姫路市役所
3月15日	姫路市老人福祉施設連盟 栄養士部会研修会	福岡	ホテルモントレ姫路
3月20日	ノーリフティングケア研修会	長谷川	みかしほ学園
3月22日	ストレスマネジメント研修	井貫	姫路市役所
3月25日	変更届等の簡素化に関する説明会	施設長・春本・山本・福岡	姫路市文化センター

平成30年度ボランティア活動実績

活動日時		活動内容	活動人数
平成30年	4月10日	デイ利用者へ手品披露	5名
	4月12日	デイ利用者へ習字指導	1名
	4月17日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	4月18日	ふれあい喫茶手伝い	3名
	4月19日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	4月26日	デイ利用者へ習字指導	1名
	5月2日	デイ利用者へ踊り披露	7名
	5月7日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	5月9日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	5月10日	デイ利用者へ習字指導	1名
	5月14日	デイ利用者へ手品披露	5名
	5月15日	デイ利用者へ音楽演奏	5名
	5月17日	デイ利用者へ習字指導	1名
	5月30日	特養利用者へメイク	1名
	6月14日	デイ利用者へ習字指導	1名
	6月15日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	6月21日	デイ利用者へ習字指導	1名
	6月21日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	6月23日	デイ利用者へ手品披露	1名
	6月28日	デイ利用者へ手品披露	5名
	7月5日	デイ利用者へオカリナ演奏披露	5名
	7月11日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	7月12日	デイ利用者へ習字指導	1名
	7月16日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	7月17日	デイ利用者へ手品披露	5名
	7月26日	デイ利用者へ習字指導	1名
	7月31日	特養利用者へ俳句教室開催	2名
	8月9日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	8月11日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	8月22日	ふれあい喫茶手伝い	3名
	8月24日	デイ利用者へ手品披露	1名
	8月28日	デイ利用者へ手品披露	5名
	9月7日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	9月13日	デイ利用者へ習字指導	1名
	9月20日	デイ利用者へ習字指導	1名
	9月23日	施設行事手伝い	10名
	10月11日	デイ利用者へ習字指導	1名
	10月11日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	10月19日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	10月23日	ふれあい喫茶手伝い	3名
	10月25日	デイ利用者へ習字指導	1名
	10月25日	デイ利用者へ手品披露	5名
	11月7日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	11月8日	デイ利用者へ習字指導	1名
	11月15日	デイ利用者へコーラス披露	8名
	11月16日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	11月21日	施設装飾ボランティア	5名

	12月8日	デイ利用者へコーラス披露	8名
	12月10日	デイ利用者へ手品披露	5名
	12月11日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	12月13日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	12月15日	施設行事ボランティア	5名
平成31年	1月9日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	1月18日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	2月9日	手品ボランティア	1名
	2月15日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	2月20日	施設装飾ボランティア	5名
	2月21日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	2月22日	デイ利用者へ手品披露	5名
	3月4日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	3月6日	デイ利用者へ大正琴披露	5名
	3月23日	デイ利用者へコーラス披露	8名
	3月25日	デイ利用者へ手品披露	5名
	3月29日	特養利用者へ俳句教室開催	2名
	参加ボランティア: 団体(12団体) 個人(3人)		
	延	活動回数: 64回	
	延	活動人数: 256人	